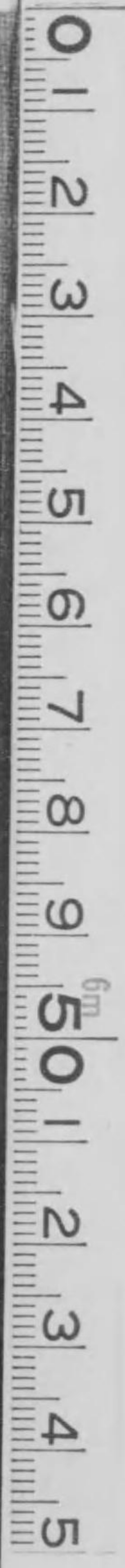


285
24



始



25.12.20

25068
17



日曜學校叢書
第一編

お
嘶
の
研
究

大正
11. 7. 24
内交

日曜學校叢書の發刊に際して

日曜學校運動は最も新しい宗教運動として、既に一般社會の注目を蒐むるに至りました。而して今や内實促進への過渡期にあると云ふことは疑ふに餘地がありません。

止み難き生命の深化。内面化への驀進は必然の趨歸であり到來果がある。此處に吾人の苦悶は深められ、奇しき永遠の理想は、來らんとする清き生命の曙への無限の憧憬であらねばならぬ。

日曜學校運動！而して盛らるべき内容の如何！それは、やがて慘たる破綻と、又輝かしき建設への岐路と運命とを創造する。日曜學校運動の前途を支配するものは實に、唯だその内容如何にあると云はざるを得ない。此處に吾々は本叢書を發刊して各方面に亘つて健實なる宗教教育者の理論的根據及び實際的方法に關する諸大家の指示を仰ぎ、據つて以つて聖なる業への理想に近づきたいと念願いたします。

一、先づ其の第一編にして、網羅されたる諸大家の手によつて「お嘶の研究」を公けにいたしました。必

ずや吾人の得る處大なるを信じます。

一、本叢書發刊の計劃に際して、麗はしい装幀の勞をおとり下さつた、大西留吉氏に對しては、衷心の感謝を捧げずにはゐられません。

日曜學校研究者

内 容

童話の一般……………	櫻井 鎔 俊……………	一
童話の心理と其教育……………	久保 良 英……………	七五
日曜學校に採用すべきお伽噺の種類……………	北 畠 貞 顯……………	三三
お 噺 の 仕 方……………	久 留 島 武 彦……………	一四
お伽噺の話方及び構成法……………	岸 邊 福 雄……………	三三
お伽噺の性質及び話方……………	巖 谷 小 波……………	二七
お話の理論及び實際……………	天 野 雉 彦……………	三三
史 譚 の 話 方……………	岩 井 藍 水……………	三五

童話の一般

櫻井 鎔 俊

論

序

魂と魂との接觸、其間に人間の温かさを感ずる事が出来ないならば人生は如何に冷たい黄土と化してしまつたでせう。

人と人、人と自然との交りに若し愛の纜が切れてゐたならば其結果は、人より人へ、人より自然への挑戦の外に何が見出されるであらう？ 悲しきものは人の世の争ひだ。斯うして人々は他を虐げ自らも苦しみ、樂しかる可き人の世の眞の幸福を見出し得ずして、其得るものは唯淺ましい計畫と怖ろしい争闘と、争闘の後にこみあげて來る底知れぬ涙のみである。

斯くして人の感情は日々傷つけられて行く。

國家對國家、社會對個人、個人對個人、其れ等の間に起り來る雜多な問題は皆悲しい争鬭の反映ではあるまいか。

一體誰が悪いのだ。

誰も悪くはない、教育がいけなかつたのだ。否、教育のみの罪ではない、然し其罪の半は當然教育の負ふ可きものなのだ。

誤られた自然科学的教育、誤られた國家主義的教育、誤られた武士道主義的教育、其等の購得たものは冷い人の世の争ひのみであつた。然も其怖ろしい過失が今尙操り返されてゐるではないか。

斯くて茲に新しい教育運動が起つた、其一は宗教教育運動で其二は藝術教育運動である、此二は共に人間の虐げられた感情を救はんとして起り來つた運動であつたのだ。

宗教教育……………。

何と云ふ尊い仕事だろう！

私は先づ此尊い仕事に参加させて頂く事を心から祝福せずに居られない。

子供の宗教々育は大人の編み出した單なる神學の注入ではない、又自分達の宗派の教線擴張でもあり得ない。私達の宗教々育に於ける目的は彼等小供の胸底に秘められたる佛性の開發であらねばならぬ。

其方法に至つては必ずしも一様ではないけれ共、一言にして云ふならば、謂く、「藝術的方法によつて宗教的ムードを起し、子供達の靈をして其ムードの中に心ゆく迄浸らせる事ではない」

茲に於て私は童話に價値を求め、童話！其は人類の持つた最初の藝術であり最初の宗教であつた。

エクレストンは謂ふ。

——童話とは人の使命を心靈より心靈に運ぶ偉大なる使者である。これは他の何物を以つても侵入し得られぬ所へ宛ら丸木舟のやうな敏さで侵入しつゝ其使命を運んで行く——話とは又人の音聲を以つて描かれる心の繪姿である——。

然して現在宗教々育に従事する人達の中に眞に藝術的カルチュアールを持つた人が幾人あろうか、例ひ童話を取扱つてゐるにしても一時の好奇心からの戯れであつたり、教訓と云ふ大人達の作つたせゝこましい範疇の教育であつたりする事が多い様に思はれてならない。斯うした人達は兒童の宗教々育と云ふ尊い奉仕に参加しつゝ、却つて彼等子供の萌出でんとする芽ばねを踏み躪つて行くものではあるまいか、感情の陶冶を祈念する宗教々育藝術教育の理想に反するも亦甚だしいと言はねばなるまい。

私達は何時までも眠つてゐてはならない。
長き生命の夜は今明けた。

子供達と私、其は先生と生徒、教育者と被教育者であつてはならぬ、共に光明の白

道を辿る永劫の友達——永遠の旅づれでなければならぬ。

子供の旅づれになる事、其れには先づ何よりも彼等の藝術であり彼等の宗教である此童話の世界を忘れてはならない。

一、童話の使命

私達の研究は此問題からスタートしなければならぬ。今此問題を考察するに際して便宜上二つに分類して考へて見る。

一、童話の本質的使命。

二、童話の從屬的使命。

童話の本質的使命とは如何、此に關してブライアントは云ふ。

——童話の人生經濟の上に齎らすパートは愉悅を與へる事だ (To give joy) 愉悅を與へる事、夢中に精神生活は進み培はれる、此處にこそ教育に於ける童話の眞の使命が

ある——と。

音楽にしる劇にしる興味を與へるので、其は教授ではあり得ない様に童話の目的も又愉悅を與へる事に存する、茲に藝術としての童話の存在が規定せられるのである。

次に童話の從屬的使命とは童話を利用する立場より考へたものである。

先づ吾人は童話によつて教訓を與へる事が出来る。恰も其はお菓子の中へお藥を入れて子供に飲ませる様に、童話と云ふ彼等の好物の中へ教訓を含めて知らず／＼の間に彼等を訓育しようとするものである。又童話によつて自然科学の法則を彼等に教へることも出来る。理科の説明や數學の説明に巧みに童話を利用するならば彼等は嬉し相にして聞いて呉れる。然し其は飽く迄も從屬的使命であつて決して本質的使命ではない、斯うした童話も必要はないことはないが、藝術としては第二義的なものとなるのである。

童話が單に教訓や神學の説明であつたり自然科学の道具にすぎないならば其は恰も

ミロのピナスの像が解剖學上の説明に供された様なものであらう。

童話、子供の生命の糧である。童話が單に大人達のさもしい計畫にのみ役立つならば其は子供達に取つて餘りに悲しい事である。

童話はあく迄も子供達のものでなければならぬ。其間に大人の功利の上にもものゝ價值を求めようとするの意志の介在を許してはならない。

藝術の目的は人生の觀照に存する、人生の實相、自然の神秘、此を洞察する事によつて到達し得る世界である。然して童話は又兒童の本能を基底として其處に神秘の世界があり運命の暗示がある。

童話は幼きものにのみ許されたる詩の天國である。然るに恐ろしい惡魔が此天國をおびやかさうとする。干からびた大人の感情や冷い理智の眼から、彼等の好むにつけて入つて大人の道義を強いたり自然科学を注入しようとする計畫する者、其等は凡て恐ろしい詩の天使への叛逆者である。

童話の子供達へ與へるものは、建築されたる成人の完成品でなしに子供達自身が將來個性建造に資すべき素材でなければならぬ。

私達の子供への贈り物は神學の童話的説明でなしに、童話其れ自身の中に彼等の宗教を發見させるものでなければならぬ。

私はあく迄も第一義的使命を重んずる。従つて美の使命とする所即ち童話の使命である。

一、童話と宗教々々育

日曜學校で童話は缺く可からざる一要素である事は大變私共の興味を引く現象である。然らば童話は宗教々育の上に如何なる關係を有つてゐるでせうか、原始民族の精神生活は殆ど全部宗教生活であり、其生活の社會的な規範は皆宗教でした。然し彼等原始民族の宗教は今日の如き立派な宗教ではなくて自然崇拜、祖靈崇拜、精靈崇拜、

動物崇拜の如き極めて原始的な宗教であつた。然して原始人は丁度子供の様に自然に對して驚きの目を見張り此を悉く人格化して崇拜の對象とし茲に各民族特有の神話や傳説と云ふものが出來上つた。即ち原始時代の宗教は殆ど神話に過ぎない。然して今吾人が研究の對象としてゐる童話は此神話や傳説の流れである。そも童話の源泉たる神話や傳説が私共の祖先の原始人の驚異から生れたのだから其等の神話や傳説に神秘的な要素が多い事は當然の事である。然して子供の世界は詩的で神秘的だから此點に於て神話や傳説に共鳴する。だから佛教日曜學校では是非佛典に顯はれてゐる神話や教祖に關した傳説を大いにやつて欲しい。神秘境の住人たる子供が此等の傳説や神話に含まれた神秘に觸れて云ふ可からざる満足を感じ夢の如く現の如く此境に悠遊する唯茲に注意す可きは、子供の成長するに従つて曾ては彼等の精神の中に遊飛せる無数の妖精や鬼神が漸時其影を薄くし現實の世界が段々領土を擴張して來る場合に於ける童話の取扱ひ方である。即ち此時期の子供(尋常五年生位から)は神秘的な事に關しては

今迄程興味を持たなくなつて来て史談や實話を好む。「此は眞實にあつたお噺だよ」と云ふと喜んで聞きます。然しながら決して神秘の世界が彼等の心から消滅したのではない。否科學が萬能でない限りは大人になつても神秘の世界が有る筈です。但年齢と共に神秘の領土が狭められたが、同時に其領土が深められたのです。だから童話の取扱ひ方も子供の年齢に従つて幼少の時は廣く莫然と神秘を語り長するに従つて漸時狭くして現實的な要素を多くし然も其現實の中に深い／＼底の知れない神秘を語つて行かねばならない。即ち人生を暗示し運命を暗示し、魂の底に横はれる涙を暗示して行く可きだと思ひます。然し此は仲々容易ならぬ事であります。何となれば、其處には作者や話者の人格と深い連鎖を持つて居り、其話の子供への影響は噺其物よりも話者自身の其噺に對する味ひの方が影響を残して行くのですから話者が其童話を深く味つて居れば居る程感化は大きい。ブライアントは讀んだ噺よりも聞いた噺の方が人格的影響の遙に大なる所以を示して語る時には *Story + Teller's appreciation* 『お噺と加ふるに

話者の鑑賞』が子供に響くからだ云つてゐます。尙此問題に關しては機會を得て詳細に申し上げ度いと存じます、要するに以上云ひました事を結んで見ますと、日曜學校では

幼き子供には極めて神秘的なお噺をせよ

長するに従つて實話の形式を取つて其中に神秘を語れよ

と云ふ事になります。

二、童話の種類

童話と云へば「あゝお伽噺か」と早合點する人があるが童話は決してお伽噺ではない。お伽噺は童話の一分科に過ぎない。但し童話學 *The Science of Fairy-tales* の著者、アトランド氏 *E. A. Hailand* の如くお伽噺 *Fairy-tale* の中に古話 *Sagas* と童話 *Nursery-tale* とを含ませてお伽噺を廣義に解してゐる者もないが、大體から云つてお伽噺

は童話の一小部分に過ぎないとする方が當つてゐる。

ブライアント女史 Sara cone Bryant は彼女の著「お噺の仕方」How to tell stories to children (1917) の中にお噺 Story を分類して、

- 一、お伽噺 The fairy story
- 二、無意義談 The nonsense tale
- 三、自然界物語 The nature story
- 四、歴史談 The historical story

とし其一々に就いて詳細に説明を施してゐる。

私は次の様に分類してはどうかと思ふ。

- 一、昔噺或は民族童話 (Folk tale)

此は何時頃作られたともなしに其民族の間に傳はり然も其民族と非常によく調和したもので、從來昔噺と云はれたものである。此は童話の尤も純粋な形を備へてゐるも

のである。桃太郎、かち／＼山、舌切雀、浦島太郎、花咲爺、こぶとり、猿蟹合戦等
其他獨逸で有名なグリムのお伽噺は此に屬する。

- 二、お伽噺 (Fairy-tale Nursery-tale)

此は或時代の作家の創作意志によつて作られたもので其點に於て一とは明瞭に區別する事が出来ると思ふ。例へばアンデルセン物語、フェネロン物語等其他現代お伽雜誌と名のつくもの、幾千頁を飾る所謂創作童話と名づけられるものである。

- 三、傳説 (Folk-lore)

此は各地方に傳はつてゐる傳説である。傳説は昔噺と似通つた點があるけれ共、其事實の如き形式を取つてゐる點に於て相違がある。

- 四、神話 (Mythology)

此は傳説と同じく子供の爲めに作られたものではないが、傳説や神話を産んだ時代の人々の心理が子供の心理に可成り近い爲めに、子供に歡んで迎へられるお噺である。

世界各国に傳はる神話が此れである。

五、少年小説 (Juvenile tale)

此は漸やく青年期に入らんとする時期の子供に適するものである、例へばバアネツトの「小公子」や「秘密の庭」其他ロビンソン漂流記、ウキダのフランダーズの、犬ガリイバアの旅行記等は此に屬する。

六、歴史談 (Historical story)

此は歴史上事實として許されたるものである。

七、事實談 (True story)

前の少年小説は事實の形式は備へてゐるが假作せられたるものであるが、此は實際にあつた話を物語りにしたものである。

八、寓話 (Fable)

此は元來子供の爲めに作られたものではないが、子供にも喜ばれる。然し子供に語

られる時には、寓話本來の面目を捨てねばならない。即ち寓話本來の面白味は其巧みに寓した所にあるのだが、子供に喜ばれるのは寓意でなくて、表はされたる事柄である。だから人によつては寓話を童話の中に含めない者もある、今は準童話として取扱つて置く、有名な *Aesop's fables* や *The fables of La Fontaine* 等其他佛教經典の中にも此種の物語が多い。

四、童話の具備條件

以上童話の八種の中、昔噺、傳説、神話、歴史談、事實談は創作する事が出来ない創作し得るものはお伽噺と少年小説である。或人の如きは童話を民族童話に限るとし、童話は創作し得可からざるもの、如く主張してゐるが然し、民族童話と雖、矢張或時代の作者（其は後代の幾人もの人の手によつて修正されたにしても）によつて作られたものに違ひないのだから。童話は創作し得可からざるものと限つたものでもあ

るまい。若し創作するとしたならば如何なる標準によるか又創作されたるものを語る場合に如何なる標準によつて此を選択するか暫らく此を考へて見やう。

- 私は理想童話の具備條件として次の四個條を算して見る。
- 一、兒童の本能を基底としたものでなければならぬ。
 - 二、お噺の有する思想が非教育的であつてはならぬ。
 - 三、藝術的完全を備へて居なければならぬ。
 - 四、兒童の理解し得る範圍のものでなければならぬ。
- 以下順を追ふて説明を試みる。

五、童話の心理的基礎

(第一條)

大體子供の世界には道德と云ふものがない。道德生活を營む程意志が發達してゐない。然し無道德と云ふ事は不道德と云ふ事とは違つてゐる。今甲なる成人があつて其

處にあり合はせのキセルでお客の頭を無闇に叩いたら實に不道德極まる仕打ちである。然し東西も分らぬ赤子がお客さんの頭を叩いたとて「貴様は不道德な奴ぢや」と怒る人はあるまい。

彼等は無道德の世界に住んでゐる。然して彼等の行動は凡て衝動的である。大人であるならば澤山な慾望が一時に殺到して來ても、意志が思慮し選擇し其慾望を統一して行きます。然し子供は意志が發達してゐないから慾望に統一がない支離滅裂である。だから子供は今喧嘩するかと思ふとすぐ仲直りをする。試に子供を連れて京極を散歩するがよい。人形を見れば「ねあれ買つてよう」靴を見れば「ねあれ買つてよう」帽子を見れば「ねあれ買つてよう」リボンを見れば「ねあれ買つてよう」とお母さまの袖がチ切れ相になる。此は子供には色々な慾望が起つて來ると其等を選択して一番強い慾望を取りて他を捨て茲に統一をつけて行く意志が發達してゐないから、色々な慾望が起つては消え／＼して其間に統一がない。

曾て私が四條通りを散歩してゐた時、向ふから可愛らしい幼稚園の子供が一人右手には大きな洋傘を持ち左手には学校のお道具を抱

「すゞめ〜今日もまた……」と歌ひながらやつて来た。所が唱歌に餘程興が乗つて来たど見ゆ、突然傘も道具も其處に置いて遊戯を初めた。勿驚交通繁き四條通りの中央ですよ。其時私は「實に悠々たる天地があるなア」と感心しました。此は全く遊戯の衝動が殺倒して来て此を制する力がないからです。即ち子供の行爲は衝動的であり本能的である。如斯子供の本能的慾求が自由に満されて行くならば、決して「つらい浮世」ではないのですが、此處に邪魔をするものは周圍の事情である。子供自身に幾らリボンが欲しくても、お母様の賽布が物を云ふ。幾らお菓子が食べたたくても「そんなに食べるごお腹が悪くなります」との一言が邪魔をする。抑制し切れない程強い子供の本能的慾求も此等社會の事情に出く會はずと、忽ちにして回まされてしまふ。茲に彼等の本能は涙を飲んで退却する。然して傷つけられた本能的慾求は、仕方なし

に心の底へ姿をかくす。潜在意識となつて心の底へ姿を消せば忘れられてしまふ。そして表舞臺には早や次の慾求が活動してゐる。この慾求も幸に満足すれば好いが不幸にして満足させられないと、又傷害を受けて樂屋へ罷り下る。斯うして樂屋には傷を受けた慾求が重り重つてうよ／＼してゐる。そして隙さへあれば此等の慾望が共同して舞臺面に躍り出で大ストライキを起さう／＼としてゐる。けれ共殘念な事には樂屋と舞臺との間に目玉を光らしてゐる張番が居る。即ち潜在意識と顕在意識との中間に前意識と云ふものがあつて潜在意識は舞臺面に飛び出す事が出来ない。飛び出す事さへ出来れば受けた傷害は必ず直るのだが。

塊太利の維納大學の精神病學教授シグムンド・フロイドの主張し出した精神分析學に名高い例を引かう。ひどいヒステリに罹つてゐる年わかい女があつた。その女の過去の閱歷を探ると下のやうな事があつた。自分を非常に可愛がつて呉れた父親が死んでのち間もなく、その女の姉が結婚した。ところがどうしたものか此女は姉の夫に不

思議ななつかしみを持つてお互に親しくする様になつた。固よりそれが戀だなど、は毫も意識してゐないのである。そのうち姉は病氣に罹つて死んだ。母親と一所に旅行してゐて、此事を知らなかつた女は、家に歸つてはじめて亡き姉の枕頭に立つた時、ふと慟う思つた。姉上が死なれたのだから私は今あの男と結婚が出来るわけだ。

日本では弟妹が嫂や姉婿と結婚する事はざらにあるが西洋では是は不倫だと見做されてゐる。現にフロイド教授の國では知らないが、英國では近頃まで法律で禁じてゐた。姉婿に懐しみを持つてゐた此女は、ふと結婚と云ふ觀念が胸に浮んだとき、社会的因襲の前に跪いて、この慾望を自ら抑壓阻止してしまつたのだ、もとより結婚と云ふ觀念が浮ぶ位だから女は姉婿に想ひを懸けてゐたのだらう。しかし明かに夫が戀だとは自分にも思つてゐなかつた。そして時が経つと共に女は全く此事を忘れてしまつた。後に激烈なヒステリ患者となつてフロイド教授の診察を受けに來た時には、曾てさう云ふ慾望を抱いた事さへ想ひ出せない程であつた。それが教授の精神分析治療

を受けてゐる間に、顯在意識の上に呼び返され、非常な情熱と興奮とを以て表現された時、此患者の病は癒へた相だ。この派の學說では忘却と云ふ事をも抑壓作用にしてゐる。

子供の本能が満足させられないで傷害を受けて潜在意識となつて樂屋の奥に罷り下つて忘れられ。此等の傷を受けた慾求が積り／＼しても其儘捨て、置いたならばヒステリには罹らなくとも必ずいぢけた子供になるか不良少年になつてしまふに違ひないそこで如何にしても此傷を受けた慾求を舞臺面に引き出して其傷を癒してやらねばならない。舞臺面に引き出しさへすれば即ち思ひ出させさへしたなら癒るのだ。所が前に一言した様に潜在意識と顯在意識、樂屋と舞臺の間に前意識と云ふ見張番がある。ところが唯一度此張番が弛む時がある。即ち抑壓作用が減するときがあるそれは睡眠の時である。此時に傷つけられた慾求共が束になつて意識の世界へ飛び出さうとする。けれ共尙見張番の目をくまらず爲めに出鱈目な扮装をする。其處にあり合はせの人物

事件の何んでも用ひ、辻褄の合はない風をして出てくる。扮装とは象徴だ。凡ての小供の慾求が自由に、絶對自由に満足するのは唯此夢の世界丈だ。其夢とは即ち童話である。

幾ら子供の傷害を受けた慾求達が飛び出さうとしても裸體の儘で飛び出しては風俗壊亂だ、母様の目玉がこわい、其處で鬼征伐天狗退治とか云ふ辻褄の合はない著物を著る。

諸君議論が茲迄進んで來た時翻つて一言しやう。「子供は何故お嘸を好むか」と。お前は何か一番好きだとい子供に尋ねたら馬鹿でない限りは十人の中十人共お嘸よと答へる。何故そんなに好きなのだ。曰く、自分達の止むに止まれぬ本能的慾求が童話の中では絶對自由に満足されて決して拒まれないから。お嘸の園には黒金の杖を持った恐ろしい番人は居ない。森の中には底迄澄み切つた泉がある。そして渴いたら何時でも飲む事が許されてゐる。泉の向ふにはお菓子の家が建つてゐる。お腹が空いたら何

時でもお食べ。其家の中ではカステラのふとんが敷いてある。眠くなつたら何時でもお寝よ。あゝ妙に自分の體が光つてゐる。オヤオヤ何時の間にか黄金の著物を著てゐるよ。此園では満足されないものは一ツもない。斯くて子供の慾求の總てが満足され其傷は悉く癒される。そして此園に遊びに來る數が多ければ多い程、其子供はよく成長する。お嘸の園は不思議なく、夢の園だ魔法の森だ。

童話には以上の様な心理的基礎があるから子供の心理を忘却した童話は完全なものとは云ひ得ない、童話はいく迄子供の心理に即したものでなければならぬ。

六、童話の思想的背景 (第二條)

人は思想を有する動物だとはよく聞く言葉である。デカルトは「我考ふるが故に我あり」と云つたとか、兎に角人間生活の上に思想が重要な地位を占めるものである事は首肯し得る事である。

現代社會の諸問題中最も重要なものは思想問題である。然も其思想は目に見えぬから甚だ以つて厄介だ。若し思想が胸にでもぶら下つてゐるものなら「彼奴危険思想だ」と直ぐ分るから警察も大きに助からうに、事實は其とは反對で何れが危険か、穩險か、第一定める可き尺度が明瞭でない。且つ時代によつて相違があるから現代から危険と呼ばれる思想も、數十年後には穩健かも知れない。

従つて何れの思想が教育的であり何れの思想が非教育的であるかは、ちよつと分り相にもない。然も其ちよつとが大違ひのものである。あの大露西亞帝國を覆し獨逸帝國を破壊したものは、聯合軍でもなく又革命軍でもなかつた。其は思想の力であつたのだ。恐る可きは思想の力である。然も成人であれば其人個有の性格を有し、其性格を通じて其思想の影響を受けるが、子供だと其影響の受け方が極めて直接的だから尙更恐ろしくなつて来る。

先日神戸教會の日曜學校を參觀した事がある。其時最も私の興味をひいたものは各

教室の壁の色であつた。其教室に入ると心の底までしんとする様な色であつた。幼い子供には如何に有難い御説法でも周圍が不潔で騒々しかつたら、馬の耳に風だ。私共はよくこんな事を経験する。お噺に愈々油が乗つて来て満堂水を打つたるが如く、演者なく聴者なく無我夢中になつてゐる時「ウフツ」と笑つたものがあるとする。お噺はそれきりだ。出なほさなくてはならない。即ち前に一言した様に子供は衝動的刹那的に動いて行くものだから、お噺に夢中になつてゐる時、何處かでウフツとやることもウフツに氣を取られてしまふ。此が子供に聞かせる事の難かしい原因でもあり、又易い原因でもあるのだ。だから童話法の中心問題は「聴者をして他の一切のウフツ(刺戟)を除き、童話の有する刺戟をして十二分の効果あらしめる事」である如斯幼兒の教育は環境の教育だ。即ち幼兒は、個性が充分に發達してゐないから外界に影響される事が多い。然して童話とは兒童精神生活の壁ではあるまいか。幼い子供の思想生活の殆んど全部が童話であると云つてよいのだから、其童話の有する思想の影響を受

ける事は大したものであるに相違ない。

然し茲に吾人の注意すべき事は、思想は童話の背景であつて、決して童話其物ではないと云ふ事である。即ち其有する思想を骨とすれば童話の筋は其肉であり皮である骨は決して外から見えない。だから童話の思想なるものは露骨であつてはならない。世には教訓お囃なる名の下に此種の弊害に墮したものが非常に多い。或はお爺さんやお媼さんの聞くお説教を、其儘子供に教へる様に教義を焼きなほした對話童話もある。誠に嫌な感じのするものだ。私はかう思ふ。成人の神學と子供の神學とは違つてゐる筈だから成人の教理を直ちに子供に其儘を教へる事は出来ない。且つは又童話や對話はブライアント女史の云ふ如く *entertainment* であつて決して教授ではないのだから、此種のお囃はお囃と云ふよりも、寓話と云つた方がよからう。とは云ふ者のかうした童話や對話に全然價值も効果も認めないと云ふのでは決してない、少くとも第二義的なものだ。如斯く露骨に思想を出すよりも寧ろ、いつともなしに流露したものを微かに伺ひ得る位がよい。雲の間からちよい／＼龍の爪が出る位なのが、一番美しくして且又効果も著しい。

オシッコをするくせのある子供をなほした母親の話にこんなのがある。毎晩子供が寢床へ入つて、今から寢入らうとする迄意識のぼんやりしてゐる時、

「坊は賢いからオシッコしないよ。オシッコがしたくなつたらお起きするのよ」

と云つて子供の腹を撫でた。斯くすること數日、遂に其子供のくせはなほつたと云ふ事だ。

人は無意識の間に一番影響を受けるものだ。殊に子供に於て然りである。故に其功を急ぐの餘りに、露骨に教訓を出した囃の影響よりも、事件の展開に夢中になつて面白笑止く笑ひさゞめいてゐる間に受けるお囃の影響が、遙かに大なる事を考へねばならない。繰り返して云ふ。思想は童話の背景であつて決してお囃其物ではないと。かうした弊に陥らない様にと私は「非教育的」と云ふ言葉を用ひました。思想の上の

教育的と非教育的とは前述の如く截然たる區別がなく、此は寧ろ其選擇者（或は創作
者）の思想が教育的と非教育的との判断をなすものではあるまいかと思ふ。然らば童
話の先生たるべきものは先づ第一に自己の思想の豊富を期せねばならない。ブライア
ントは斯う云ふ、

(A) 話者たらんとする者は先づ平生より自己の思想感情を豊富にしてお凧を正當に
觀照せねばならぬ。

(B) 話者自身が共鳴し同化しない凧は決してするなど。

童話の作者に豊富な思想があつて初めて書かれるお凧に潤が出来、お凧の演者に美し
い感情があつて初めてお凧が生々して來るのである。

七、藝術的完全 (第三)

其作品が藝術的に完全であるか否かによつて子供への効果は非常に違ふと思ふ。此

には種々な注文があらうが童話に最重要なものは均齊 (Symmetrical) である。凧全體と
してしつくりまとまつてゐなければならぬ。西洋にあるお凧によく凧を二つも三
つも連結した様なのがある。グリムの物語等には澤山ある。例へば The foxes brush や
The brave little tailor の如き其れである。此等の話は讀んでゐても變な氣がする、お凧
は均齊と同時に自然 (Natural) なものでなくてはいけない。此は決してお凧の空想的分
子を否定する意味ではない桃から人が生れたり犬や猿がものを云つたりする事は大人
からは非科學的で不自然かも知れないが、子供自身に取つては極めて自然である。然
るに相當に智識ある人にして、尙お凧が大人から見非科學的である不自然である、
と云つて否定する人がある。そんな人にはかう云ひ度くなる「然らば君の今思つたり
云つたりしてゐる事が果して科學的であり萬代不易の學説か」と。學説は毎日變化し
てゐる。地球が圓いと云ふ事を今でこそ當然と思つてゐやうが、コペルニカス以前の
人は何と思つてゐた。地球が平だと云つて毫も怪しまなかつたではないか。然らば此

時代の人の考は非科學的で、桃から人が生れると考へると何等違ひはない。現代人が地球が圓いと思つてゐるのも、眞實かどうか分つたものぢやない。然うして見ると子供の考も大人の考も五十歩百歩ぢやないか。其に子供の考が非科學的で大人の考が科學的であり自然であるとは口が過ぎると、斯う云ひ度くなる。子供の心理には空想的な事は極めて自然である。今云ふ自然はそんな自然を意味するのではない。お噺には定つた約束がある。例へば天へ昇る時には目をつむるとか、水の中を行く時は目をつむるとか、兎の躍るのは月夜だとか云ふ如きである。此を破ると變なものになる。或は愉快な材料に陰鬱な背景を用ゐたりする如き噺は、空氣々分を破壊する様なものだ。彼のアンデルセンのお噺は、種々な點に於て勝れたものであらうが、殊に自然と云ふ點に於ては申分がない。極めて自然だ。無理がない。其故は彼は眞實に子供になつてお噺を書いてゐるからだと思ふ。

八、童話の理解力

(第四條)

幾ら立派な研究でも幾ら立派な講演でも、讀む人聞く者に分らなければ所詮がない。幾ら見事なお噺でも子供に分らなければ猫に小判だ。

A 構造の單純。噺話の構造が子供に理解出來兼ねる程複雑では困る。水滸傳の如く澤山な人が出て來るのも困るし、アラビアンナイトの様に種々なる事件が混雜して、ては子供には分らない。子供と云つても其年齢によつて理解力に相違があるから、豫め與へんとする子供の年齢を考へねばならない。カサア (Katherine Dunlap Cather) は斯う云つてゐる。

The hearer framework of the story must be made up of events that are fraught with interest in his particular period of mental development, and must introduce personages with whom he would like to companion, and whose movements he will follow with approval, pity, condemnation-

tion, or rejoicing,

即ち童話の骨組は兒童心理の發達段階に於て最興味を持つ事件によつて作らねばならない。斯くしてこそ出て來る人物や動物を他人の様に思はず、一所に泣き一所に悲しみ行動を共にしてゐる内に、お嘸の中に巻き込まれる。かうなれば占めたもので、其子供は其お嘸の住人になりて、茲に充分な効果を見る事が出来る。即ち其話中の人物の性格が子供の性格に影響するのである。お嘸は此處まで來ねばならない。其れには兒童の心理を研究して、其に應じた道具立てをせねばならぬ。

B 叙述描寫の單純。此には種々な方法が用ゐられてゐる。物語的なもの對話的なもの寫生的なもの印象的なもの。何れにしても簡單明瞭でなくては子供に分らない。然し全體から云ふと物語的にすら／＼書いてゐて其處に印象描寫があるといふと思ふ。

若し又話す 合であれば決して抽象的であつてはならない現實的具體的であらねばならぬ。お嘸の上手下手はナレーターが如何なる程度迄現實化し具象化して話し得る

かといふ事に懸つてゐると思はれる。

兒童物語的興味の發達四講

第一講 幼年期

お嘸とは子供が聞く物語である。然し唯單に子供と云つても嬰兒もあれば青年もある。而して其間には可也心理的相違があるから其年齢によりて與へらるべきお嘸も當然違つてゐる筈である。村の若い衆氣取りで居る青年に「昔々お爺さんとお媼さんがありました」と話せば「何だつまらない」と云ふにきまつてゐる。又幼稚園の園兒に史談を聞かせるのに「頃は元祿十四年十二月十四日播州赤穂の城主御高何十何萬石淺野内匠頭長矩……」と云つても聞くものではない。其故は子供が史談を好むのは、少年後期の英雄崇拜の心理に適するからで、幼稚園時代の子供の心理には英雄崇拜心は未

發達だからである。如斯同じ子供と云つても其間には随分心理的な相違があり、従つて彼等の物語的興味も決して一樣ではない。

然らば彼等の心理に適せざるものは一も二もなく受け容れぬかと云ふに然らず。幼年期の兒童には少年少女期の心理の編まれたお噺は興味がないけれ共、少年少女期の兒童に幼年期の心理の編み込まれたお噺は相當興味を湧かせる事が出来る。例へば幼年期の兒童に史談の味は分らないが、少年少女期の子供には犬や猿がものを云ふと云ふ如き幼年向きの噺は相當に興味深く迎へられるのである。「犬や猿がものを云ふもんか」フン嘘だいい」と、云ひつゝも尙聞いてゐる。其譯は、

彼等現在の心理には適せざるも彼等が幼年期に於ける心理的経験を想起して茲に興味を感じる内何時の間にか幼年期の心理になり返るのである。

此に關して好例があるから話さう。曾て大阪の中津町でお噺をした時の事だつた。聴衆は幼年五割少年三割成人二割であつた。其時私は桃太郎を話し出した。「昔ねお爺

さんとお媼さんがありました」と語り出すと少年少女諸君は「ワー何のこつたい」と云ひ出した、成人の人達は口でこそ云はぬが「何だ馬鹿／＼しい」てな顔をした。けれ共私は「今に見ろ、きつと話に酔はせてやるぞ」と心の中で叫びながら、どん／＼話を進めた。すると第一番に幼年兒童は夢中になつてしまつた。少年諸君はと見れば怒つたり笑つたりだ。「所へ夫が出て来て桃太郎さん何處へおいでございますか」と云ふ所まで來ると少年達は「うそや／＼」と不満を漏らしてゐた。其内又噺が面白くなるど、さつき怒つてゐた子供迄が一所になつて肩を動かしてごつと笑つてゐる。かうして何回となく「うそや／＼」と云ふ口ですぐ、ドツと笑つた。成人達も最後には遂々ニコ／＼振りを發揮してしまつた。

即ち彼等は曾て経験せる幼兒の心理になつて、うそと知りつゝ興味をもつたのである。然し此れとても、若し此場合桃太郎よりも、もつと高等な内容を持つたお噺をしたならば、彼等はおつと共鳴した事せう。

そこでお囃をするには彼等が如何なるものに興味を感ずるかを研究して、其興味あるものを内容として取り入れねばならぬ。そこで私は便宜上四期に分類して彼等の物語的興味を考へて見やう。

一、幼年期の物語的興味(約三歳より六七歳)

此は幼稚園時代に當る。此時の子供の興味は其身邊近くのものに集中されて居る。殊に靜的なものよりも動くもの音のするものに興味を感ずる。彼等の身まはりのものと云へば先づ、家族及び犬猫鶏馬牛等の家畜人形の如きである。此時期の子供は未だ充分想像力が發達して居ないから、鬼妖精天狗魔法使等の彼等の想像に依らねば分らないものには充分な興味を持つてゐない。只彼等は、「身の近くのもの」「動くもの」「音のするもの」「家庭と親しきもの」を尤も喜ぶ。此時期の子供に最も喜び迎へられる昔囃の代表的なものは「舌切雀」である。此物語中の登場人物「爺」「媪」「雀」等は、彼等の日常親しみあるもの許りだから、此お囃を聞くに彼の日常の経験を喚起して非常な

興味を湧かすのである。「お爺さんがありました」と云へば彼等の知つてゐるお爺さんを連想して、茲に彼等の経験が新しくなる。其處に面白味があるのである。而して其囃の内容によつて彼等の連想するものは曾て彼等が親しく経験せるものゝみである。曾て私は舌切雀のお囃をして間もない或日、Nと云ふ子に「其お爺さんはどんな風をしてたでせうね」と尋ねると其答が氣拔だ「先生片目の爺さんよ」と。私があの子が何故あんな事を云つたのかと不思議に思つたが其後數日、其子供の家庭を訪ねて忽ち疑問は氷解した「彼のお爺さんは片目だったのである」。此は彼等の経験が廣くない爲め起つて來る當然の事である。

且つ又此時代の子供はものゝ鳴き聲を喜ぶものである。此心理を捕へてゐるお囃はグリのブレメンの音樂師である。今簡単に其内容を紹介するとかうだ。

或所に一匹の馬が居たが随分年が寄つたので其主人から役に立たぬと追出されてしまつた。そこで此馬は一層ブレメンの町で音樂家にならうと思ひ立ち、道を急ぐと老

犬に出遭つた。そこでお互に身の上話が初まる。此も馬と同じ身の上で明日から食ふに困ると云ふ話。それぢや一緒にプレメンへ行かうと二匹が一緒に出かけると猫に會つた。話して見ると此又同じ身の上でプレメン行きの間になつた。斯くて三匹が道を急ぐと又々出遭つた鶏君も同じ身の上で、遂々四匹が一緒に出かける事になつた。道を急ぐ内日が暮れて困つてゐると向ふの山に燈りが見ゆる。あそこで一夜露を凌がうと燈りを目當てに急いだ。さて来て見ると驚いた。家の中では三人の泥棒が酒宴の真最中だ。よし一番驚かしてやらうと馬が窓に前脚を掛ければ、犬は馬の背に猫は犬の背に、鶏は猫の背にと重り乗つて一二三で一緒に鳴いた。一緒に鳴いた聲はヒ、ンワン／＼ニヤンコケコツコイ。此れを聞いた泥棒は「お化ツ」と命から／＼逃げ出した。四匹のものは泥棒の御馳走をすつかり食べて自分／＼の好きな寢床に就いた。馬は表玄關へ犬は裏玄關へ猫はかまど、鶏は梁の上へ、一方の泥棒は山の上まで逃げて行つたが後ふり返つて見ると別にお化けの來る様子もない。さては何物であつたらうと

一人が様子を見に歸ると四匹のものから散々な目にあはされて命から／＼逃げ出した。此嘸の中ではヒ、ンワン／＼ニヤンコケコツコウが一番幼年兒童の興味をそゝるのだ。以上は動物の鳴き聲だが彼等は動物のみならず凡ての呼び聲に興味を持つてゐる。物賣りの擬聲と其身振りは東洋幼稚園の岸邊先生が一番よく研究して居られる相だ。實に幼稚園の子供に話すのには最も必要な事である。此期の子供に與へる物語は其自身全體としても一部としても韻律的に出來て居なければならぬと同時に、又話し方に於ても韻律的な話し方をせねばならぬ。水田光氏がお嘸の形式的の條件として(イ)適度の變化性(ロ)適度の反覆性を數へてゐるがお嘸の内容の一部が適度に反覆されて行く事は其處に微妙な韻律を作るからである。

お嘸を分類する上に於て内容と形式との上からするならば

(A) 内容の上に興味を覺ゆるお嘸

(B) 形式の上に興味を覺ゆるお嘸

と二種になると思ふ。グリムやアンデルセン其他一般お伽噺とか昔噺とか云はれるお囃の九分通りは、内容に興味を覚ゆるお囃である。形式に興味を覚ゆるお囃とは例へば鼠の婿選みの話等は此の種に屬する。

昔親鼠が自分の子鼠に婿を選ばうと思つて、何でも世界で一番偉い婿が欲しいと思ひ、太陽の所へ行つて、「婿になつて下さい」と云ふと「いや己よりも雲の方が偉いから雲の所へ行け」と云はれて雲に「婿になつて下さい」と云ふと「己だつて風にはかなはぬ風に頼め」風に頼むと「いや己だつて障子にはかなはぬ、とてもあいつは吹き破れない」と云ふので障子に「婿になつて下さい」と云ふと「己よりも鼠の方がよっぽど偉い己だつて鼠にかぢられりやそれ迄だ」と云はれて矢張鼠の婿には鼠が一番よかつたと云ふ話である。

此噺は別に内容が面白いのではない。明らかに形式に興味を求めたのである。鼠から太陽へ、太陽から雲へ、雲から風へ、風から障子と、どこまで開展して行くかと思

つて居る所へ俄然其出發點の鼠に歸つて來る所に何とも云へぬ面白さがあるのである。此れは循環形式のお囃とも云ふ事が出來やう。

昔大豚中豚小豚の三匹の豚があつたが或日小豚が橋の上を通ると足取りにつれて橋が「チツクタクチツク」と鳴つたので、橋の下にかくれてゐた鬼が飛び出して來て小豚を食へやうとしますと「お止しなさい、私の後からもつと大きな豚が來ますよ」と云つたので鬼は小豚を許してやりました。やがて中豚が橋を通りかゝると又「チツクタクチツク」と鳴つたので鬼が飛び出して來て食へやうとしますと「お止しなさい私の後からもつと大きな豚が來ますよ」と云つたので、鬼は中豚を許してやりました。やがて大豚が橋を通りかゝると又「チツクタクチツク」と鳴つたので今度こそ鬼が飛び出して來ますと、あべこべに大豚に蹴り殺されてしまひました。

此お囃も形式に興味を求めたもので、反覆形式のお囃とも云ふべく反覆する所に面白味があるのである、尙舌切雀、こぶどり、かち／＼山、さるかに合戦の如きは善い

ものと悪い者の對立から成る對立形式のお噺は多く此型に入つてゐる。然し内容と形式と一應は分類出事るが内容に興味を求め、同時に形式にも興味を求めたお噺もない事はない。其好例はアラビヤナイトの「王子アイメットと仙女バヌィの話」である。

印度に年老いた一人の王様があつた。此王様にはフセイン、アリ、アイメットと云ふ三人の王子があつたが、此三人とも従妹のヌーロンニハル姫に懸想した。王様も此れには困つたが結局三人を呼び寄せて「世界で一番珍奇な寶を持つて歸つたものに姫を與へやうと宣言した。此宣言には三人とも異存はなく五ヶ月の後城下の或宿に集まる事を約して、各々一名の従者を從へて旅立つた。第一王子フセインは同じ印度のピスナガル王國に至り、或店の軒に休んでゐると、毛氈賣りが通りかゝつた。六尺四方程の毛氈を小脇に抱へて何でもない品なのに三十バルス(一バルスは約四十四圓に當る)と云つてゐるので、呼び止めて其譯を聞く。「此毛氈の上に座つて目的の場所を心で念ずると瞬く間

に行ける」と云ふので早速買ひ取り、己こそはヌーロンニハル姫を手に入れたと喜んで歸つた。

第二王子アリは波斯の國シラズの都に着き見物してゐると、象牙の筒が一本三十バルスと云ふ法外な價を云つてゐるのを聞いて、譯を尋ねると「此筒を目に當て、見たいと思ふものを念ずると其物が硝子の向ふに見ゆる」と云ふのです。そこで其筒を買ひ取りヌーロンニハル姫は私のものだと喜んで歸つて來た。

第三王子アイメットはトルキスタンの首府サマルカンドへ行き、人造の林檎を「三十五バルスで買はんか」と呼んでゐる商人に逢ひ譯を聞くと「此林檎の香を嗅げば四百四病は何でもなほる」と云ふのです。王子は早速買ひ上げヌーロンニハル姫は己のものだと喜んで歸つて來た。

扱三人は宿屋に落ち合つたが、中兄のアリは何心なく象牙の筒を手を取つて目に當てるに忽ち「アツ」と叫んだ。「ヌーロンニハル姫が危篤だッ」フセインとアイメット

も代る／＼筒を見れば姫はもう虫の息だ。そこでフセインは自分の毛氈を取出し三人の兄弟は此に乗ると矢の如く飛んで姫の室に歸り、アーマットの林檎を嗅がすと間もなくなほつた。

話はまだ／＼續いてゐるが此等は三人の兄弟の活動の何れを中心とも決する事が出来ない。各々鼎立してゐる。此三動活が鼎立して興味を出してゐるのだから矢張形式に興味を求めた囁と云ひ得る。又内容其物が彼等の想像に訴へて興味を感せさせるものだから、内容にも興味を求めてゐる。然し此種のお囁の内容は前に云つた様に幼年期の子供には分らない。其はリズムミツクな彼等の心理は形式には共鳴するが、其内容を構成する毛氈や筒や林檎の不思議な働きを感ずる程彼等の想像力は發達してゐないからである。若し彼等が此囁に共鳴するとすれば其は内容でなしに形式である。

尙此外にも種々な形式のお囁があるが、要するに此時期の子供が如斯き形式に興味を求めたお囁を好むのは彼等の韻律を好む心理から生れ出たもので、適當な反覆に依つて生ずる韻律に興味を覺るのである。だから此時期の子供には囁の一部としても全體としても内容としても形式としても韻律を有するものを興へねばならぬし、話し方にも韻律的な話し方をせねばならぬ。

兒童物語的興味の發達

第二講 少年少女前期

幼稚園時代の兒童の物語的興味は彼等が日常現實に經驗する事象の上にある。故に「昔々兎さんが一匹居りました」と云ふと兎を見た事のある子供は「あゝ兎かお父さんと先達て動物園で見た、あれだな」と彼等の經驗を再現して非常に興味を覺るが、見た事のない子供は再現すべき經驗がないのだから仕方がない。だから此時代の子供のお囁は彼等が日常經驗するものを内容とせねばならぬ。此意味から此時代を後に來

る可き第二現實期に對して第一現實期と名づける。殊に此時期の子供は韻律的な生活をしてみるので従つて韻律的なお祈りを好む邊から此時期を又韻律期と名づけられると思ふ。

扱而幼年期の物語的興味は以上の如くであるが次に少年少女前期（幼稚園の終り頃より小學校三年頃まで）に進むと彼等の物語的興味は如何に變化するであらうか。

二、少年少女前期（約七八歳より十歳）

此時代に進んで來ると單に彼等の経験を再現させる丈のお祈りでは満足してゐない。其故は此時期の兒童心理の特色として想像力が異常なる發達を爲すが故に、日常の経験の如きは尋常茶飯事になるのである。且つ又此時期では自我意識が強くなつて極めて主我的で頑固です、自分は飽く迄偉大なる者の如く装ひ、ひたすらに非凡である事をのみ是願ふ様になる。俗に「七つ八つの憎まれ盛り」と云ふのは正しく此時期に相當するので、目上の人の云ふ事でも一應二應では従ひかねるのである。然し單に従は

ぬと云ふ故を以つて彼等の心理其物に注意せずして、無理解なる父母長者が彼等の伸びんとする自我を抑壓し、彼等の自尊心を傷づける如きは恐ろしき罪惡である。不自然な拘束をせずすん／＼彼等の伸びんとする芽を伸ばすがよい。幾ら伸ばしても尙彼等の自我は其足らざるを歎いてゐる。如斯彼等の自我は幾ら伸びても満足する事が出来ないで遂には現實界を破つて空想の天地に漂つて行くのである。此は當然の成行である。即ち幼年期では現實界に於て経験すべき事象が餘り多いので此現實界已外に空想の世界がある事に迄は氣付かなかつたのだが、少年少女前期になつて自我意識が頓に發達し來ると、現實界では此自我を自由に、極めて自由に擴張する事が出來ぬので、現實の屋根を押し破つて空想の天空に伸びて行くのである。だからお祈りとしても當然彼等の偉大なる願望彼等の空想を満足させる様なものが起つて來るのである。其自我擴張が激しい丈此時代のお祈りは構想が非常に大きい、大きい丈興味も深い。

グリムのお伽噺の中にある『六勇士』の如きは實に構想が大きい。今其梗概を揚げ

るとかうだ。

むかし／＼戦争に出て大手柄を立てた武士が戦争が済むと、たつた三圓の手當を貰つて除隊になつた。

「待てよこれぢアつまらぬ。一つ國中の寶を残らず差出させるやうにしてやらう」と林の中を道つてゐる内一人の男が六本の木を根扱ぎにして藁でも取扱ふやうにしてゐたのを見て、家來になつて王様のお城へ一所に行かうと云ふと、

「よし、だが一寸お待ち、此薪をお母さんの所へ持つて行つて来るから」と答へて、一本の大木で他の五本を丁度藤のつるの様に束ねて持つて行つた。間もなく戻つて来たので一所に出かけると、又一人の男が一心に鐵砲の狙ひを定めてゐるので、何を狙つてゐるのかと尋ねると、

「二哩彼方の檜の木の枝にとまつてる蠅の左の眼を射つてやらうと思つてるんだ」と云ひました。

「家來になつて王様のお城へ行かぬか」と云ふとすぐ承諾した。

間もなく三人は七つの風車が風もないのにクル／＼廻つてゐるのを不思議に思つて見物しながら二哩程行くと、木の上で片方の鼻の孔を抑へて、片方でソロ／＼息を吐いて居る人がありました。

「もし／＼君は何してるのです」

「二哩彼方の七つの風車を廻してるのです。両方の孔で吹くと強すぎるので片方でソロ／＼吹いてゐるのです」

「家來になつて王様のお城へ行かないか」

「よし」と云つて早速家來になつた。四人が進んで行くと、一本足で立つてる人があ

る。

「君は何してるのですか」

りです」

「家來になつて王様のお城へ行かぬか」

「よし」と云つて五人が一緒に出かけました。すると帽子を横かぶりした男に逢ふたので、

「其の風は何んだ」と尋ねると

「いや此帽子を真直に被ると空を飛んでる鳥まで凍えて落ちる程の寒氣がするのだ」

「家來になつて王様のお城へ行かぬか」

「よし行かう」と云つて家來になつた。力男と狙ひ男と鼻息男と走り男と冷し男の五人の家來を連れて都へ行きました。すると王様が「自分の娘と競走して勝つた者を娘の婿にする」と云ふおふれを出してゐるので早速走り男と競争させました。それは杯を一個づゝ持つて遠い所まで水汲みに行く競争でした。王女が十足程歩む間に走り男の姿はもう見なくなりましたが、水を汲んで歸る途中睡氣がさして馬の頭骨を枕

にして眠つてしまひました。王女の姿が見ゆる様なつても走り男が歸らぬので、狙ひ男がよく見ると、途中で睡つてゐるから得意の狙ひで馬の頭骨を射ると、走り男は目を覺まして王女の十分前に歸つて來た。競争は勝になりましたが、王様は一兵卒に王女をやるのを嫌つて鐵造りの室に案内して、

「さあゆつくりおあがり」と云つて外から門をかけて歸つて行きました。そして室の床の下からドン／＼火を燃させましたので、六勇士は熱くなつて室を出ようとしたが、扉も窓も開かないので王様の惡計だと氣付きました。

「だが大丈夫」と云つて冷し男が帽子を真直に被り直すと、急に寒くなりました。

王様は、

「今頃は死んでるだらう」と思つて扉を開けると六人ともピン／＼してゐるので料理番に

「何故もつと火を燃さないか」と云ふと

「王様火は一杯に燃えて居ります」と云ふのでかまごの下を見ると、成程火は盛んに燃わてゐる。此はてつきり魔法使だと思つて、別の工夫を考へて兵士に、

「娘の代りに金をやるから耐わて呉れ」と云ふと、

「宜しい私の手下の一人が持てる丈下さい」と答へました。王様は喜んで承諾して十四日の後に取りに来る様にと約束をしました。兵士は國中の仕立屋を集めて、

「十四日間かゝつて出来る丈の大きな袋を拵わろ」と命じました。袋が出来上ると力男にそれを擔がせて王様の所へ行きました。王様は初は驚きましたが、

「どれ丈持てるものか」と馬鹿にして一噸の金を出させました。力男はそれを袋の中へ投げ込んで、

「此れ丈では底が見ゆる」と云つて請求しました。それから順々にお庫にある限りの寶物を出させたが、それでも袋の底が見ゆるので「もつとく」と力男に云はれて、國中の金を集めて七千臺の荷車へ積んで持つて來ると、みんな——金も車も牛も——袋

の中へ投げ入れてまだ一杯にならぬ。

「まあ仕方がない」と力男は肩へ持ち上げて仲間と一緒にずん／＼行つてしまひました。王様は驚いて、國中の兵隊を集めて六人の後を追はさせましたが、

「何のこつたい。空へ吹き上げてやるぞ」と云つて鼻息男がフウンと吹くと澤山な兵隊はみんな青空へ吹き上げられてしまひました。此れから六人の男は寶を分配して氣樂に一生を終りました。

此お伽の六勇士は實に此時期の兒童の理想的人物であつて、彼等の如き異常なる體力或は技能を有せん事を熱望し憧憬して止まぬのである。此時期の子供の感情は極めて粗野である。彼等は現代文明社會に於ける小さき野蠻人である。愛とか同情とかは青年處女期或は少くとも少年少女後期に發達し來る感情であるから此時期の子供には受け容れられ相にもない。然し私達のお伽をする最後の目的は、彼等の胸の奥の奥に萌え出でんとする愛と情とに觸れ此を培ふ事にあるのであつて見れば、受け容れな

いと云つて全然捨て、終ふ事は出来ない。一步々此に近づける様にするのは當然である。但此時期の兒童心理を無視してはならないと云ふ丈である。飽く迄も兒童の心理に即したお囃でなければお囃として許す事は出来まいと思ふのである。

さて幼年期から青年處女期を通じて最も神話に深い共鳴を感じる時代は此時期である。其は何故であるかと云へば神話を生んだ時代の原始民族の心理が最も此時期の兒童の心理に類似してゐるからである。若し兒童期は人類發達期の縮圖であるとすれば正に此時期は神話時代に相當するのである。

神話時代の民族は實に想像力に富んでゐる爲めに凡ての自然現象を物語に作り上げてしまつたのである。尤も單に想像と云つても二種ある事を注意しなければならぬ。自發的想像と故意的想像とである。大人の想像はどうしても故意的であるが子供の想像は自發的である。外界から何等かの刺激を受けると其の暗示によつて直ぐ心中に種々の觀念が組み立てられ自分さへ思ひもよらぬ想像が生れて來るのである。大人の想

像は飽く迄能動的で外界の刺激が直ちに想像になつては働かぬのである。如斯子供の想像が自發的受動的なるが如く原始民族の想像も亦自發的で凡ての現象を麗しい彼等の想像から物語に作り上げた其れが神話であるから、従つて此時期の兒童にも共鳴するのである。

同じ神話の中でも特に此時期の子供達から興味を持つて迎へられるものは所謂 *Primitive-why-Stories* である。此物語の成立は如何と云ふに、前にも一言せし如く原始人は自然現象に驚異の目を見開き、如何にかして其説明をしようとするけれ共、其等に就いて系統的解釋を施す程彼等の心理が發達してゐない爲めに、前述せる如き自發的受動的なる彼等の想像によつて此を解釋したものが其れである。今其の一例を擧げると雷の解釋に就いて北歐神話に見れば、

雷はトルの怒りである（トルは暑熱の神）黒雲は其怒りの表はれて雷鳴はトルが山々の頂を車をひいて走る音であり、電光は物を打ち砕くトルの斧の光りであるとして

北歐の未開民はトルの怒りを恐れたのである。

又月と太陽に關してエスキモー人種の神話では月は一人の少女で太陽は彼女の兄であるが、少女は兄の殘虐に耐へず常に前に遁れ太陽は其後より此を追ふので太陽と月とは常に前後して出るのであると云つてゐる。

又北斗七星に關する希臘人の神話によれば元來此七星は七人の處女であつたが其中六人は神に戀人を求めた其二人はポセイドンに愛せられ三人はゼウスに愛せられ一人はアレス神に愛せられたが、七人目の一人は神に戀人を求め得ずして人に求めた。

唯の人間に求めた爲めに、後七人が共に星になつた時、七人目の娘は自分が神の愛を得る能はざりしを恥ぢて其光を隠した。だから一つ丈光らぬ星があるのだと云ふのである。

其他此種の神話は各國を通じて可也澤山あるが、要するに未開民族の想像から生れ出たもので其點に於て想像期の兒童に歡迎せられるのである。如斯基神話の過半は

原始宗教と混じて（或は神話其物が原始宗教の全體で其れが宗教的儀禮と結び付いてと云つた方がよいかも知れぬが）其民族の精神を支配してゐたのだから如斯基神話の取扱ふ少年少女前期の宗教々育の上には見逃す事の出来ない研究資料であらうと思はれる。

扱而如斯基想像の盛んなる時期の子供に、彼等の想像を満足せしめる如きお、嘶を教へる事は如何なる結果を得るだらうか。此時期の子供には現實との明確な區別がないのだから、架空的物語によつて彼等の空想を刺戟し遂には彼等をして空想家たらしめ實直なる業務を厭ふ様な傾向を生じないだらうか。此は一般に疑問とせられてゐる問題で其の是非も様々に論議せられてゐる。吾人は當然此問題に觸れて見ねばならぬ。

兒童物語的興味の發達

第三講 空想の功過

お嘸と云へば「あゝ架空談か」と思ふ程お嘸では空想が重要な要素を占めてゐる。桃太郎の鬼征伐、舌切雀、猿蟹合戦、浦島太郎、グリムやアンデルセンのお伽嘸に、さては各國の神話傳説、其等のお嘸から空想的要素を抜き去つたならば後には何が残るであらうか？残るものは零であるとは今更事新らしく論ずる必要もないが、然らば其空想は人生々活に於て如何なる價値を有するものであらうか？

一體空想と云ふとつまらぬもの無用のものと考へられるけれ共、吾々の日常生活を吟味して見ると案外空想的要素が重要な位置を占めてゐるのに驚くのである。吾人の理想なるものは、一面空想である。其は過去の經驗を基礎としては居るもの、其處に多量な空想的要素を交へてゐるのである。吾人の思惟する事を一々吟味したならば單に感官の經驗のみでなしに其間に空想的な要素を随分含んでゐるであらう。

實驗を以つて最上の方法とする科學に於ても、純粹思惟を唯一の方法とする哲學に於ても、若し空想的分子を全然除去して顧みないならば、偉大なる科學的發明も哲學

的發明も生れ出ないだらう。

ニュートンは地上に林檎の落ちた事から暗示を得て萬有引力の法則を發見したと云はれてゐる。此は一種の空想である。若し彼にして想像力（空想は啓培せられてやがて想像力となる）に乏しかつたならば此尊い一大發明も生れ出なかつたであらう。

科學者はよくこう云ふ。「お伽嘸は非科學的で兒童を毒するものである。兒童にはもつと科學的智識を授けるお話を聞かせたがよい」と。斯う云ふ人達はもつと／＼お嘸を味はつて見なければなるまいと思ふ。

蘆谷重常氏は「空想の研究」の中にかう云つてゐる。

「サントー・ジュモンが初めて佛蘭西で飛行船を飛ばしたのは、今から漸と十數年前に過ぎぬ。モンゴフイルが初めて風船を發明したのですら、僅か百數十年前の事である。然るにお伽嘸に於ては空中飛行術が既に三千年も四千年も前から空想されてゐた遠くギリシャ古代の神話北歐の神話等に於て、空中飛行は既に盛に子供の空想に行は

れてゐるのである。印度波斯等の東方の口碑に於ても、種々なる飛行術が空想されて居る。我々の祖先の馬鹿げた空想家は斯くの如く熱心に空中飛行術を夢想してゐたのである。其夢想を殺したものは同じ祖先中の理性家であつた。かく太古に於てお伽嘸中に空想された事柄が數百年或は數千年を経て實現せらるゝ様になつた。而してかくの如き空想が如何に幾多の兒童の好奇心を動かし、延いて勇敢なる冒険家や、熱心なる發明家を生むに力があつたかはいふまでもない事である。(中略)

敢て空中飛行術のみに止まらない。潜航艇は浦島太郎の龜に於て已に空想せられてゐる。其外電信であるとか、無線電信であるとか、ラヂウムの如き強大なる放射力を有する物質であるとか、凡て近代化學の顯著なる事實が皆古來お伽嘸の中に空想せられてゐるのである。(中略)爾も現代の科學に於て未だ實現せられざるお伽嘸の空想が更に後代に於て實現せらるゝの機會ある事は之を斷言して憚らない」と。

果して然りとすればお伽嘸は科學的正確を缺除するが故に、兒童に科學的智識を授

けざるが如きも、實は兒童の心理に即して彼等の空想を満足せしめる事が、やがて彼等に科學的發見の種子を播いてゐる事となるのである。然らばお嘸に於ける空想は發明の母であり發見の刺戟者であると云はねばなるまい。

科學許りでなく哲學に於ても然り。プラトンのアイデアにしるスピノーザの神にしるカントの物自體にしる、或特殊なる意味での空想から生れ出たものと云ふことが出来るだらう。

文藝音樂美術等の藝術に至つては空想は其中心生命と云つてもよからう。古來藝術的天才は皆偉大なる空想家であつた。大なる藝術的作品は作家の偉大なる空想から生れ出たのであつた。

又宗教に於ても然り。佛とか神とか救濟とか恩恵とか云ふ事に對して完全な想像力を有しないならば、畢竟血も肉もなき概念的な命辭に過ぎないだらう。釋迦や基督や法然や親鸞の様な宗教的天才は、きつと淳化培養されたる偉大なる空想の持主だつた

に違ひない。

斯く論じ来れば人間の生活には空想は非常なる功用を有するものであるが、滋養分に富める食料品は腐敗し易いと同様、空想の効用が多い程其半面の罪過をも考へて見ねばならぬ事である。

曾て文藝教育に好意を有する某教育家の談に「お伽嘶に熱心すぎて所謂耽讀する子供はごうも實着な學習を嫌ふ。そんな子供に限つて授業時間でもごうかすると、授業はそつちのけでお伽嘶の本を讀んでゐる。こんな子供が一級の中に必ず二三人はあるが、實に困つたものである」と云つて居られた。然もこうした子供に單に實着な仕事を嫌ふのみならず、やがては彼等の空想を實行せんとするのである。ロビンソン漂流記に祟られて一夜作りの探險家になつたり、ジゴマの活動寫眞を見て盜賊の眞似をする事がある。其故は此時期の子供には現實と空想との差別が明瞭でないからである。マーク・トウエーンが、自分の少年時代の思出を書いたと云はれる『トム・ソーヤ』

物語』の中に、海賊のまねをして數日家へ歸らなかつた事から起つた悲喜劇を書いてゐるが、曾てお嘶で聞いた海賊を氣取つてゐる少年の心理描寫には實に巧妙な筆を揮つてゐる。

ソログロブの書いた小説にもこんな様なのがある。或所にバアカーと云ふ子供が母と嫁母と家庭教師と一緒に廣い貴族らしい家に住んでゐた。所がお母さんの教育方針として、成る可く近所の下等社會の子供と一緒に遊ばせまい、下層社會の惡風を受けさせない様にと云ふので絶対にバアカーを外出させない。バアカーは一人で居た事がない。何時でも母親か嫁母かがつききりである。彼は屢々一人で居たいと望んだ。彼は窓から外を眺めると、温い太陽の下に子供達が愉快相に魚を漁つたり、鳥を射たりしてゐるのを見て美しくてたまらなかつた。どう／＼こんな考へが浮び出した。それは自分の母は眞實の母ではなくて、眞實のお母さんは何處か遠い所にゐるのだ。そして自分は魔法使に捕へられてこんな所で擱になつてゐるのだ。元は立派な王子様だつ

たのだ。そして魔法使はお母さんに化けて自分を監視してゐるのだと。此空想は事實として彼に信せられた。彼は如何にしてか逃げ出さうと考へてる内、或日母の留守に窓の所で遊んで居た三人の子供達に頼んで、魔法を破る咒文を聞いて来て貰ふ事にした。そして其を叫ぶと共に逃げ出す手筈をした。然るに彼の逃走計畫が母に観破されて、パーカーは魔法使の母に連れられて他所へ行つてしまふ。三人の子供は汽車の窓近く、王子の身を憐んで追ひかけて來たが、汽車は走りすぎて三人の子供は地に倒れて泣いたと云ふ話である。

若しお伽嘸の空想は子供をトムやパーカーの如き空想の極端なる實行者にしてしまふならば、實に危険千萬なものである。然し此は一部の子供、特殊の限られたる子供に就いて云ふので、お嘸を好む全體の子供が悉くこんな子供になると云ふのではない。然し一般に少年少女前期の兒童はさうした傾向を有つてゐる事は事實であるから、お嘸教授の方法に至つては充分注意せねばなるまい。唯一部分の子供がこゝうした結果に陥

つたと云ふ事を證據としてお嘸其物の空想的要素を批難する事は止めて欲しい。小波先生がこゝう云つて居られる。「お伽嘸を読むが故に泥棒になる、お伽嘸を読むが故に狂氣になると云ふ議論は、飯を食ふから胃病になるといふのと同じである。飯は人體になくてはならぬものであるが之を過食すれば胃病になる。否牛乳の如き滋養物でも之を飲み過ぎれば胃病になるのである。併し其爲めに飯や牛乳は、人體に有害であるといふことは出来ない。假りにお伽嘸に多少の害があつたにしても其一害あるが爲めに九つの利益を抛棄することは出来まい云々」と。

そこで吾人は再び兒童の心理を考へて結論に進まう。少年少女前期の子供は夢の様な空想的生活をしてゐるが、少年少女後期に進むと空想と現實との矛盾を感じて夢は自然に醒めるのである。従つてお嘸の種類から云ふならば、少年少女前期に喜んで聞いた空想談よりも歴史談事實談に非常な興味を覺ゆる様になつて來る。此は一種の反動とも見られると思ふ。だから少年少女後期に於て空想的な物語よりも事實談に興味

を覺ゆる様に兒童の物語的興味を進めようとするならば、少年少女前期に於て或程度まで充分彼等の空想を刺戟する様なお噺を聞かすべきである。空想期に充分空想を刺戟する様にすれば次に來る現實期には現實的になる。だから極端に云へば空想期に充分其物語を刺戟しなかつたならば、現實期になつても現實的な物語に興味を覺わぬかも知れない。空想期を空想的にする事がやがて現實期を現實的にする事になるのである。

お玉杓子の尾は蛙になつてから無用であると云ふ理由で、其尾を切り取つてしまつたならば一匹前の蛙にはなれないだらう。と同様に空想を好む兒童の心理も一人前の人間になる爲めには必要なものである。そして時期が來るとお玉杓子の尾が自然に消えて行くと同様、兒童の空想も時期が來れば自然に現實化されてしまふ。

もう一度繰り返して云ふ。空想期の兒童には或程度迄空想談によつて其物語的興味を培つてやるべきである、が然し美味しいものは食ひすぎ易い道理、吳々も食傷を起

さない様に注意すべきは勿論である。

兒童物語的興味の發達

第四講 少年少女後期

次に少年少女後期に於ける物語的興味に就いて述べて見よう。

此時期は年齢から云へば十歳より十四歳位、尋常科の三年頃より六年頃までに相當する。心理學によれば、此時期は表象の階段に屬し、而して其表象を形造る爲めに直觀が盛に働くのであります。直觀とは現在の感覺より刺戟を受けて外物を認識する作用である。従つて此時期の子供は恐ろしい程鋭い觀察をする。而してかうした直觀によつて形成された表象を悉く記憶として殘して行く。此時期程記憶力の盛んな時はない。無用な事でも有用な事でも差別なく、どんな難解な事でも覺わ込む。全く器械的

な記憶である。あの難かしい。經典や聖書の句でも、此時期の子供なら譯なく覺わてしまふでせう。然らば前の少年少女前期に於てあんなに盛んに活動した想像作用は、如何なる變化を來したでせうか。

此時期の想像は餘程制限される。即ち前期では現實と空想との間には明確なる區劃なく、如何に不合理なる話を聞いても、其儘受け入れる事が出來たのであるが、此時期に進むと、其想像も現實に基いたものでなければ、承認する事が出來なくなるのである。即ち前述の如く此時期では、表象作用が心理的特質となつて表はれ、直観によつて得たる多くの經驗を、記憶によつて彼等の精神内に把持するが故に、此現實的經驗に抵觸するが如き話は此を受け容れる事が出來なくなるのである。殊に比較作用が起つて現實と空想との見分けがつく様になるから、桃の中から子供が生れたり、犬や猿がものを云つたりするお嘸では満足する事が出來なくなり、従つて空想的分子に富める物語は、餘りに喜ばれなくなつて來るのである。

何處の日曜學校に行つて見ても、五六年の(殊に男子)の多い學校は極めて稀である。今迄随分熱心に日曜學校でお嘸を聞いた子供も、此時期になるとすつかり來ない様になる其理由の中に、斯うした彼等の物語的興味の無理解が含まれてはゐないか。即ち空想的な物語に權威を認めなくなつた此期の兒童に、依然として空想的な物語を興へてゐると云ふ理由が其一つではあるまいか。考へて見なければならぬ事だと思ふ。然らば此時期では如何なるお嘸が迎へらる可きであらうかと云ふに、夫は事實談、歴史談、少年小説等である。

此期の子供はよく「先生其れはほんたうにあつたお嘸ですか」と問ひます。そして「眞實だよ」と答へると、非常に満足らしい表情をする。事實は最上の權威である。事實の前には服従するのであります。だから彼の幼年期を第一現實期と云ふに對して、此を第二現實期と云ひ得ると思ふ。

又此時期には名譽心の發達と關連して、英雄崇拜の心理が顯著となる。即ち英雄達

が彼等の力によつて、社會より名譽を擔つた話などすると、無性に喜ぶものである。そして自分も英雄になつた様に思つてゐるのである。凡そ英雄崇拜の心理は四段の階梯をなして顯はれて來ると思ふ。

其第一階段では崇拜の對象は父母、先生、巡査、村長、兵士等で、幼年の兒童に於て見らる可き英雄崇拜の心理状態である。

次に第二階段に於ては其崇拜の對象は、其時代に持て囃されて居る人物となつて來る。私共の小さい時分の崇拜の對象が、乃木大將、東郷大將、廣瀬中佐であつた事を記憶して居ります。是は稍成長して社會の事情に幾分興味を持つ様になつた兒童で、即ち十歳前後にかうした崇拜が起つて來る。

第三の階段に至ると歴史的に有名な人物を崇拜の對象とする。ナポレオンとか楠正成とか云ふ如き人物である。然し幼年期の子供も、さうした人物を崇拜しない事はないが、それは只人の話題に上るから何時とはなしに漫然崇拜の對象となつたので、十

二三歳に起り來る歴史的人物の崇拜とは少し違ふ様である。酒屋の丁稚や桶屋の小僧が暇さへあれば、立川文庫の後藤又兵衛や猿飛佐助を讀んでゐるのは、正しく今の心理である。

第四階段に於ては、かうした世間的な英雄豪傑には眞の尊敬を拂はなくなつて、釋迦とか孔子とか云ふ如き、宗教的偉人道德的偉人を尊敬する様になる。此は次に來る青年處女期に於ける英雄崇拜の心理である。而して是等英雄崇拜の心理は随分強い刺戟を與へるもので、其人の將來の品性、事業、思想、信仰等にも深い影響を殘すものである事を思はねばならぬ。兎角此時期の兒童に對して、適當なる歴史談事實談等の物語によつて、彼等の有する英雄崇拜の心理を満足せしむる事は至極至當の事である。殊に日曜學校としては、是非此時期の子供に高祖傳を話して頂き度い。話す人に話し方に對する腕さへあれば、一般のお嘶よりも以上に歡ばれるのですから。

史談を話す場合に注意すべき事は、話者が高遠な理想を持つてゐて頂き度い事であ

る。一體理想や抱負のない人のお嘸ほど情ないものはないが、殊に史談を取扱ふ場合に高遠な理想を持たないならば、一層恐ろしい結果になりはしないだらうか。

夫れと云ふのは、此時期の子供達には其民族の遺産の様に思はれる好闘の本能があり、其心理に残忍性を帯びてゐる。だから此心理を知つてゐる小賢しい話者が、争闘の歴史や血なまぐさい物語をする事によつて彼等の好闘本能を極端に満足させるならば、勿論破れんばかりの拍手喝采を得る事が出来やう。が然し其は極めて危険な事であり、野卑な事である。私達は此點を顧みて、一面さうした心理を満足せしむると同時に、他面争闘の歴史の裏に潜む哀感や涙を暗示したいものである。さうしてやがては彼等をして世間的英雄の物語に満足せしめないで、道德的宗教的英雄の話を開きたいと云ふ渴きを覺せさせる様にせしめねばならない。史談と云ふ命題の下に巷間に傳はる卑しい講談が、遠慮會釋もなく可愛い子供達の前に、而も非藝術的な方法によつて話されてゐる事を思ふと、實際涙が出さうになります。

史談や事實談の外に情緒に富んだ、美しい少年小説や少女小説があります。此は筆に書かれるのが常態であるから、餘り従來は話されてゐなかつた様です。けれ共私自身の経験によれば、適當な描出法さへ用ゐれば、兒童の心理や生活を描いた、夢の様な可愛い此種の物語を、彼等が喜んで聞く事は事實であります。殊に青年處女期の兒童には是非神秘的な、深刻な而も素ばらしく大きい感じを興へる様な小説を話す事は宗教々育の上には忘れてならない仕事であります。(青年期の物語的興味は稿を改めて書く)

結 論

以上微力ながら兒童物の語の興味の發達と、其各時期に於ける童話の取扱方を述べて來ました。要するに以上の如き彼等の物語的興味の發達に應じて、藝術的香り高き、而して宗教的に深遠なる話材を選び、上品で、すつきりした、美しい、而も全人

格的な話し方によつて、子供達にお嘶をする事が私達の理想でなければなりません。

(終り)

この小論は曾て日曜教園誌上に發表されたものであります。萬有進化の理法が私の思想の上にも動いてゐます。去年と今年、朝と夕との間には思想的進化がある。従つて今くり返して自分の原稿を読んで見ると不満な點が多い、然し此を一々訂正しようと思へば其半は新に起稿しなければならぬ。人は其時に考へてゐた事は其時にのみ眞實なのだ。こうした意味から私は或一部を訂正したのみで發表する事にした。但し序論と童話の使命とは新に添加して置いた。

童話の心理と其教育

久保良英

一、序論

日曜學校は小學校と異りて、社會上の地位も報酬もなく、これに對する研究も未だ十分に發達してゐませんから、この經營に關しては非常なる苦心と努力とを要するのであります。西洋に於ても、初めは大學教育が起り、漸時、中學校、小學校の教育が盛んになつて來たのであつて、昨年英國では幼稚園の下に二歳位からの小兒を教育するインフアント・スクールの法令さへ發布さるゝに至りました。宗教々育の方面でも同様で、大人より青年へ、青年より兒童へと歩を進めて居るのであります。即ち日曜學校の發達したのも近世で、始めは小學校と互に相反目して、一方に日曜學校の教

育は、單にバイブルのみを教へてゐる非科學的のものであると非難し之に對し日曜學校經營者は小學校の教育は完全なる人格者を養成するものでないと反駁して互に妥協提携を爲さず、その欠陥を補はなかつたが、近頃になつて、漸時改革せられて兩方が相待つてその完成を期する様になりました。米國などに於て日曜日に娛樂機關の閉鎖を行つてゐる都市などでは、親も子供も教會に參詣して一日を楽しく暮すのでありますが、ニューヨークやシカゴの如く娛樂機關を停止しない大都市に於ては、勢ひ教會に行く者が少くなりますから、その教會の牧師達は、大なる努力を要するのであります。我國に於ては一週間一度の日曜日に於ては、中には定まつた俸給以外の収入を得るために、餘分の仕事をする人もあり、また、この日を利用して、研究をなされる人もあり、また氣なぐさめのために、旅行や散策等に出る人もあつて、教會や寺院等へ行かうといふ人達は甚だ稀でありますから、我國日曜學校の經營は甚だ困難事なのであります。

また米國にては青年教會を開いて、社會的地位を有する指導者が之の指導の任に當り、因襲に囚はれず、現實的に利益顯著なる事業を營んで居ります。即ち完全なる實業教育、或は自働車學校、ミシン學校等を起して青年が自己の能力に應じて夫々獨立して行けるやうな教育を施して居ります。のみならず之にベースボールや水泳の如き青年の喜びさうな娛樂機關をも備へて居ります。而してこの學校の月謝は他の學校に比して高いのでありますが、社會的に信用がありますので、かへつて入學者は多い有様であつて、職業を求めて入學した人々も自然に宗教的感化を受けるのであります。かやうに我國でも宗教團體が消極的の慈善事業ばかりでなく、積極的に社會の福利を増進する手段を講じつゝ、宗教的生活を送るやうな人士を養成する機關を設置されることを希望します。而して本派本願寺に於て近來強調される日曜學校の如きは即ち私のいふ積極的方法の一でありまして兒童の宗教々育は必要であり且つ日曜學校に俟つことが多大であると信する私は本派の此の舉に賛同を表し、日曜學校經營者各位が萬

難を排して此の聖業に努力されんことを希望する次第であります。

偕て青年に對する宗教々育は一方、教育や娛樂機關を必要とする如く幼兒の宗教々育には種々の手段が必要で、童話を利用する如きは、極めて策の得た一であります。それで私は童話に就て兒童心理の方面から少しく卑見を述べて各位の參考に供したいと思ひます。勿論これに對する見解は人によりて多少づゝ異なるのであるが、今は私の意見を述べることにいたします。私は童話の定義や、字義を定めず、全て兒童に話す囃即ちお囃、寓話、假作、科學物語、神話等を含むものであると致します。之に對する研究の態度にも或は人類學的研究、歴史學上の見地よりなす研究、或は宗教的な見地よりなす研究等種々の方面の研究がありますが今は心理學の見地より寓話に對する研究を進めたいと思ひます。科學物語は、むづかしい學問上の話を、わかり易く書いてあるのであるから、心理學の方からは餘り面白くない話であります。また、假作物語等も後代の文人の著作にかゝるものであつてメーテルリングの「青い鳥」の如

く、その人の思想なり或は兒童がいかなる話を好むかといふことを研究するには都合がよいが、これも心理的研究上からは重大なものが見ることが出来ない。それで今は主として神話、寓話、傳説等に就て心理學的分析を試みやうと思ひます。

現今野蠻民族の狀態及び、上古民族の有様を研究するといふことは、兒童研究の上にも甚だ肝要なることであつて、童話に於ける研究にも野蠻民や原始時代の人民の話を研究しなければなりません。之に對して左に世に多く稱へらるゝ反覆説に就いて述べようと思ひます。

反覆説とは生物學の上から我々の身體的發達を見て行つた、我々は母の胎内にあるときに原始的生物の進化をくりかへすものである、換言すれば、個體の發生は系統的の發生を繰り返す者であるといふのであつて、これを我々の精神上の方面にも應用して來るのであります。かのスタンレー・ホール等の稱ふる所は之れであつて、幼兒の間は五官の感覺に限られてゐるが漸く成長するにつれて、知覺が起り、認識力が生

じ、想像、推理、の作用をなすに至るのであつて、みじかい時間の間に野蠻人や原始人の文化の發達をくりかへすものであると云ひます。けれどもこの事は、精神的にも肉體的にも全然眞實であるとは言へない。例へば兒童の遊戯を見ると時には石投げ、駈足等の遊びを好むがまた一方には上古の人々の夢想だもしなかつた、電車ゴッコなごを今時の兒童はやつてゐるのであります。

また、或る人は兒童の遊戯は將來に於ける社會生存の準備であると申します。女の子がまゝごをしたたり、男の子が戦ゴッコをやる様なものは確かに將來一人前の人になつてからの仕事の準備とも見ることができが、子供はよく何等、準備にならないことをすることがあります。

次に遊戯は勢力過剰のためである、と云ふ人があります、なるほど、つかれ切つてゐるのに運動などする者はありませんが、それでも子供はどんなにつかれたり、熱に苦しめられてゐる時でも面白さうに遊んでゐる事があります。また遊戯は緊張した生

活を弛緩せしめるためであるといふ人もあります。

以上の諸説の表はれたことは要するに反覆説の不十分なることを證明するものであります。この遊戯の外に獨逸の生理學者、フェアウォルンは、古代人民の喜んで描いた畫と現代の子供のかく畫とを集めて、比較研究をなしてゐるが、その研究の結果は、その發達の徑路は、逆になつてゐるのであります。子供は初め頭で描いてゐる、即ち何本も線を引いては、電車だとか、家だとか云つてゐる、次に形の上から書く様になり最後にはよくその眞をうがつて寫實的に書く様になります、上古の人々は全く反對で初め寫生的で次に想像的な畫と變つてゆくのであります。

かゝる事實に徴すれば、兒童の精神發達は上古人民や野蠻人の精神發達を全然反覆するものとは云へないが、しかし少くとも似てゐるといふことは出來ます。されば兒童研究の上にも神話、童話の研究といふことが大切であつて、殊に童話の研究には上古人民や野蠻民族間に行はれた話を度外視してはならないのであります。

二、童話は願望の實現

上古民族の間に行はれた、空想的な神話は、彼等の想像の反影であり、また彼等の願望の現はれであります。凡そ神話は、普通大別して、自然神話と英雄神話とに別けられてゐるが、自然神話の方は、自然の不可思議に對して驚愕し、其感情の發露を求めんとする無意識的慾求或は其不可思議を何とか説明せんとする知識的慾求の爲めに起つたものが多く、英雄神話の方は上古人民或は少くとも其作者の願望を言ひ現はしたものが多くあります。かく／＼の英雄が出て欲しいとか、かく／＼の英雄的行為がして見たいとの願望が一の英語譚を形づくるのであります。殊に其中に偉人が出てくると、その偉人を一つの代表的のものとして、從來希望して居た英雄的行為を凡て、その人物に附屬さして仕舞ふのであります。故に現在の大人の考へでは殆んどあり得ない様な超人的行為を古代の英雄は敢てして居ます。所がこの超人的行為は、やはり、

現在の兒童の空想であり願望であることが多いのであります。埃太利の精神分析學者であるフロイドが神話と子供の心と夢とは相互に關聯せるもので、神話の夢は願望の實現で、子供は同様の願望に満たされて居ると考へたのは、この點から來たものであります。

夢は昔から、種々に解釋されて居るが、夢は我々の慾望の實現であつて、我々は實現する事の出來ない澤山な慾望を持つてゐて、とても人の前などで話されない様なものもあります。かやうな慾望が平生は習慣や道德によりて抑へつけられてゐるが、夜になつて、統一を失つて來るとこれが夢となつてあらはれて來るものである。しかし間には理性が働いて、象徴主義を取つて、極簡単に表はれて來ることもあります。

一例を挙げますれば或る婦人が一人の娘と市場に買物に出て、或品物を買つて金を拂ふとすると壹圓參拾五錢の金が參拾五錢足りない、確かにあつたと思つたものがないので娘をしっかりとつけたといふ様な夢を見たが、さてその一三五といふ數字がどんな

にして表はれ何故に三五と云ふ數字が足らなかつたと色々考へてみると、いつぞや、この婦人がある町で仕事をしてゐた時、その娘は、高等女學校に通つてゐたが卒業間際になつて病氣のため、假及第で二三ヶ月滞在せなければならなくなつた。そのため不意に金が三十五弗是非入要になつて非常に苦心したことがある、その時の慾望が今こんな夢になつて、あらはれたことが判つた。

之等の願望は多く架空的で實際に行はれ難いものであるが、それでも、おさへつける事の出来ない強烈な力を持つてゐる慾望である、故に之をお祈りに作り又は之を讀んで満足を得るのであります。

所が吾人の願望の中には、強いて仕遂げんとするならば、仕遂げることが出来るけれども、社會の道徳や、習慣や法令の爲めに、制限されて之を實現することの出来ない願望が澤山あります。中にも悪戯とか詐僞とか性慾とかの衝動は殊にその根柢が深く、吾人を動かす力も、非常に強いけれども是等を十分に満足せしむることの出来ない

場合が多くあります。そこで、それを満足せしめる一手段としてお祈を作り、又はそのお祈を聞いて、その願望の一部を實現するのであります。現時の文明國に於て慘憺たる戦争が尙繰返されるのは、吾人の野蠻的衝動が文化の爲めに全然無に歸することが出来ず、生存競争の激甚なる爲め精神上の不統一を來たし、其隙間から本來の衝動が發露した結果であると解し、今後の戦争を防止するには此等の衝動に適當な發露を與へ、例へば競争とか狩獵とかを盛んにするがよい。而して吾人が此等の遊戯を喜ぶのは現時の緊張せる文化より脱がれて、一時原始民族の争闘時代に歸り、身心の弛緩状態を生ずるからであると説明する人がある。之の戦争の心理と同じく吾人の願望を實現する手段として夢を作つたり、神話や小説やお祈りや童話その他藝術的作品を作るので、若し之等の發露を求むることの出来ない場合には願望の衝動は潜在的に種々の災をなし、或はヒステリーとなり、或は神経衰弱を來したりする。恰も地熱が適當の噴火口を發見する爲めに地震を起し、地盤を崩壊して決出せずんば已まざるが

如きものである。今その願望の主なるものに就て在來の童話を分析して見やうと思ひます。

三、強大慾の實現

吾々は幼時より人間としての拮抗心を持つてゐる事は、打臥になつてゐる幼兒を横に向け或は立ちかけの子供を抑へると反抗することからも知ることが出来ます。之は生物の進化の上に極めて必要なことであつて自己弱少の感じと結びついて色々な形式を取るのであります。子供は自分の弱少を知り乍ら而も親に向つて反抗し、小さい乍らも一人前の人として待遇されんことを願つて、自己の弱小を補充する方法を見出さんと努め之が出来ない時に空想となつて、その満足を計るのであります。上古民族の生存競争の甚しい時代には一層劇しかつたのであります。今左に之等の空想を材料として、造られた話に就いて二三述べてみやう。

(イ) 大人國の話 希臘のアトラスの大神の如きものであつて、黄金の林檎を求めて出かけたヘラクレスは途中、アトラス神に遇つて、始終の話をする、アトラスが云ふには、自分より外にその林檎を採つて來ることは出来ない。汝は自分が仕事である空をしばらく、さゝへてゐよ、そしたらその間に自分は大海を六足で歩いて、その林檎を取つて來てやらうと、ヘラクレスはそれでは空を山にのせて置いてはどいつても山では低くて駄目だ、おまへが山の上に乗つて、空をさゝへて居れ、ナニニ四五千年もすれば、少しは重くなるだらうといふのでヘラクレスが空を上へ持ち上げると、アトラスはウーツと背延ひをすると、そのために天地が震動した。喜びの餘り飛んだら雲の上まで震動した一足に十哩づゝ歩いて初め足の首まで、次に膝まで、次は腰まで海水が來たがそれが一番深い所であつたといふ様な大袈裟な話がある。また北歐の神話に表はれて居る、スクリミル神の話の如き、一雷神が其のスクリミルを征伐に行つて廣い野原で一泊したが其は巨神の手袋の中に居たことが分かり、非常の響は巨神の鼻

息であつたことが知れ、又巨神の爲めに海の酒を飲ませられたり。地球を巻いてゐる大蛇を引上げさせられたり、時の老婆と勝負をさせられたりした話は、みんな等しく自己の弱小を嫌つて、強大なるものになりたいこの願望を示し、又強者を退治することいふことは、小者も尙大者に打ち勝つといふ上古人民の願望を表はして居る。しかしそれには、普通の仕方では駄目なので、色々な策略、魔術、詐欺的行爲を得意でやつて居ります。

(ロ) 小人國の話 英國等の小人達は多く、超自然的な能力を備へて、よくその身を隠し、自然や人事の運命變遷を熟知、司配する權能を有して、夜になつてから大活動を演ずる様であります。

一方北歐神話に表はれたる小人は、地下に穴を掘り、大鐵工場を所有し、金銀を鑄て、鑛山を我物とし、不思議な魔力を持つてゐます。もし彼等の行爲を邪魔する者があれば、之に復讐を爲し、悪戯をしたりすることがあります。戦争や舞踏を好んだ上古民族は之等の話によりていかに満足したことでありませう。スコットランドには小人が草叢や林の間にひそんで居て災をするが北歐では、深夜家の中に亂入して、ビールを飲むやら、鶏、豚を追ひ出すやら、皿鉢を投げるやら、柱や礎を躍らせるやら大茶目振りを發揮して居ります。我國の一寸法師の話は後世文學者の著作になつたもので小説家の空想的な慾求を満足せしむるものであるが、また、現今兒童の遊戯生活によく似てゐます。かの名高いガリバー物語の如き、小人國の人々を恰も子供が玩具の人形を扱ふ様に弄つてゐます。

(ハ) 異常なる體力及智能 子供は非常に體力の非凡なことを喜ぶものであります。グリムの話にある二哩さきの風車を鼻で吹いたり。或は、二哩さきの櫛の木の上にとまつてゐる、蠅の左の目の玉を鐵砲で打ち抜いたりする様な話や、金太郎や桃太郎の話は随分法螺を書いたものであるが、それでも子供の願望を満足させるものであります。ロシアの物語に次の様な噂があります。或國の王様が自分の子供に姫君を貰らふ

と思つて、その王子に一の鍵を渡して高い塔に上つて自分の氣に入つた女を一人だけ選んで来いと云ひつけました。王子は塔に上ると十二の窓があり、その窓毎に一人の女が居たが、唯一つ誰もゐない窓がある、それで、その窓の所へ行つて見ると、一人の女が死んだ様になつて横に寝てゐる、その女が自分の氣に入つたので、父王にそのことを述べて、王様は非常に驚いて、その女を貰ふことは甚だ困難であるからといふので、王子は、背の非常に高くなり得る男と横の馬鹿に廣がり得る男と視力の強い男とこの三人の家來をつれて、その女を探しに出かけた、先づ第三の男に何處に女が居るかを見させると遠い／＼鐵の城の中に、魔術師に捕へられて、石になつて寝てゐるといふことが判つたので主従四人は、その城に行つて來意を告げると、魔術師はその女を逃げない様に番をしてゐたら呉れやうと云つて、出て行つてしまつた。四人は夜おそくまで見張りをしてゐたがどう／＼睡氣がさして眠つてしまつた、翌朝目を覺ますと女が居ない、そこで早速目の強い男に見せると百哩さきの檜の木の下に

實になつてゐるといふので、背の高い男が一足に十哩づゝ行つてそのドングリを取つて來た。所が翌朝になるとまた居ない。今度は二百哩さきの岩の間の寶石になつてゐるといふので第一の男は一足に二十哩づゝ歩いて、その寶石を持つて來た。所が三度目になつた時には、黒海の底の眞珠貝の中の眞珠に化けてゐると云ふので、先づ横の太い男が行つて、黒海の水を残らず飲み干してしまつて、背の高い男がその眞珠を拾つて持ち歸つた所に、先きの魔術師がやつて來たので、どう／＼その女を貰つて皇后にしたといふ事でありませう。

(二) 魔力 力の強い者は、ごし／＼他を征服することが出来るが、力の弱い者は、何か外に不可思議な力に依らなければならぬのであります。これには、日月の運行等を説明する時にも用ふることがありますが、それだけでなく他を征服し又は冒険を行ふ一手段として隠身、飛行等の魔力を用ふるものであつて、之等は上古民族の淺薄な知識も強い想像力を持つてゐた時代に甘く適合しました現今の子供にも、六七歳から十歳ま

で位は非常にこんな話を喜ぶのであります。彼等は之によりて自己の弱小を補充しようとするのであつて、希臘神話にある、ベルシユースがヘラクレスから貰つた、暗黒の帽子を冠つて、怪物を退治した話の如きは最も子供の喜ぶものであります。また變身術に就てはアラビヤナイトに次の様な面白い話がある。或國の王子が惡魔のために猿にされてしまつた。これを見破つた王女は魔力によりてその惡魔と戦ふ。惡魔が獅子になると王女は一本の髪の毛を鎌になして打ちかゝる、サソリになると蛇になり驚になると黒鷲になり。猫が顯はれると狼になり、種子になると雞になり、しまいはどう／＼負けて灰になつてしまつたといふ噺であります。その外空中飛行は向上心の象徴と見るべきものであつて、昔も今も之に關する澤山な話があります。これには支那や我國でよく見る仙術や、また西洋に多い帽子やカバン等で飛行するものもあるアンデルゼンの童話に、一人の貧乏な少年が、カバンに乗つて空中を飛んで、天使に間違へられて、或王女と結婚し、後に空中で花火をやつてカバンに残つてゐた花火の

ために大事なカバンが破れてその王宮を出される噺があります。希臘の神話にはよく羽の生れた天馬に乗つて飛ぶことが行はれてゐます。

(ホ) 詐術 魔力と同じく虚言とか、詐欺的行爲によりて、甘く成功することを子供は喜ぶものであつて文明の發達しない古代に於ても盛んに行はれたもので、別に道德上罪惡とも思つてゐなかつたのであります。我國でも因幡の兎と鰐の話や、かち／＼山の兎と猫の話や、猿蟹合戦の仇討なども、みな全體としては、懲惡であるが、巧みな虚言や、奇計で成功してゐる所が面白いのであります。イソップ物語の中で狐が鳥のくわへて居る肉をうまく落さしむる所も、寓話としてよりも、その詐偽的行爲が子供に面白いのであります。獨逸の話で有名なライネツケの狐の話も、徹頭徹尾、猿の詭計が成功して居る事實で満たされて居ります。グリム物語にある、一人の法師が、武者修行に出かけて、道で一人の大人に出會つた、法師は大人に、おれと一所について來いと云ふけれども、なか／＼大人は云ふことをきかない。そこで法師は一度に七

人の人を殺すと書いてある腹帯を示して威張つて居た。その實七匹の蠅を打ち殺したのである。大人が石から水を出して見せると法師はチースから水を出して見せる、大人が空中に石を飛ばすと、法師はポケットから鳩を出して飛ばして見せる、大きい樫の木を二人で持つのに大人に根を持たせて法師は葉の方を持つてゐる、又櫻の木を引張つてはね飛ばされたのを法師は獵師の的をはずす爲めに、わざと飛んだのだと詐り巨人が自分の家につれて行つてその法師を寢床の中に臥せしめて、夜中になつて眞中を棒でたゝいたが隅の方に、小さく寝てゐたので無事に生命が助かつたといふ話があります。かの酒吞童子の話でも、日本武尊の話でも、うまく童子や出雲建を欺いて天晴れな功名を立て、居られます。か様な詐術を好む願望は全ての子供の心に燃れてゐるのであるが、これが父母や先生達によりて制御せられるから、勢ひこんなお伽嚙によつてその願望を満足するのであります。

四、自由慾の實現

子供は多く、親の目から見ると、ハラ／＼する様な冒險的な事を平氣でやつて居るこの自由と冒險の衝動的行爲がないならば、人は驚天動地の大偉業をなすことは出来ないのですが、殊に理性的判断と經驗に乏しい子供には一層この性質が強いのであります。これが遂には、不良少年の浮浪性とまでなるのであるが、多くの場合は兩親の制止によりて不満足の中に隠されて居るのであります。アフリカの傳説に、シタルメといふ者が、人食ひに追ひ掛けられて、自分の外套を、自分の行く反對の道に掛けて置いて、山の中に逃れて石の家の中に入つてゐたので、悪魔は嚙むことが出来ずに歸つてしまつた。シタルメは、自分の村に歸ると村中の人が悪魔に吞まれてゐたので、悪魔の腹の中に飛び込んで、腹の皮を打ち破つてみんなの人達を救つた、後にある酋長の娘と結婚しようとしたがその娘は、卵と牛乳と壺と石の袋を持つて居たが

悪魔の迫害を受けた時に、卵は霧に化し、牛乳は大水を起し、壺は暗黒を現じ、石は大岩になつてその危難を免がれ、目出度二人は結婚することが出来たといふ様な話がある。またこの種の話には何の目的もなく、冒険と自由を以て、はて知らぬ、さすらいの旅に出る嘶が多く見られる、グリムの話の中に、或る所に親指太郎といふ一寸法師が母の許を得て旅に出て、或る家に傭はれたが、その女主人と喧嘩して、その家を飛び出し、或森の中に来ると澤山な泥坊が集まつて王様の庫の中の寶物を盗まふと相談してゐる。そこでこの親指太郎は早速盜賊の仲間入をして、庫の鍵の穴から入つて色々な寶物を取り出して、賊共に與へたが、遂に番兵の目につかない。その後盜人達の仲間を離れて、足袋店の小僧に住み込んだが、餘り下女の悪口を云ふので憎まれて庭に居た所を草と一所に、牛に食べられて胃の中には入りこんだ。しばらくして牛は殺されて腸詰を造られた時に、その中に入つて、長く天上の裏に、つりさげられてゐた。それから後狐に食べられようとして、うまく欺して鶏をやつて追ひ歸すといふ様な嘶があります。

五、衣食慾の實現

衣食の慾望は我々人間の生存上、最も強烈なものであつて、宗教の起源は食慾と色慾とにありとます人さへあります。食慾は出生後直ちに、生ずるものであつて、子供に食物の話をしてきかせると喜んでゐます。私の子供の四歳頃だと思ひますが、澤山な繪葉書の中で、エール大學の食堂の繪を一番喜んで見えてゐました、子供がだん／＼大きくなると今度は着物や金銭の慾が出て參ります。我國の大黒様の打ち出の小槌が子供に喜ばれるのでも、あれを振ると自分が欲しいと思ふ、食物や着物が出てくるからであります。印度の童話に、貪慾な兄と正直な弟があつて、兄に欺された弟は森に往つて日が暮れたので、大きい木の上に寝てゐると、夜中になつて木の下に虎と狼がやつて來て話してゐるのを聞くと、自分が上つてゐる木の葉は食物になつて、汁は

眼病の妙薬だといふのでその弟はその葉を食べて後に或る國の王女の眼病を救つてやるといふ噂が残つてゐます。我國の花咲爺の話や、グリムの灰娘等もみなこの種の噂に屬するのであります。灰娘といふのは或富豪の妻が一人の娘を残して死んでしまつたので、二人の娘をつれた後妻が迎へられる。後妻はその繼子を、ひどく使つて臺所の雑役をさしてゐたので娘は塵や灰がかゝつて身體が汚れてゐた。或日父が町へ出る時二人の娘は父に眞珠の指輪を買つて来て下さいと願つたが灰娘は、父の帽子に引きかゝつた最初の枝を持つて来て下さいと願つた。灰娘はそれを母の墓に手向けたが、後に大きくなりその下に額づいて欲しい物を望むと白い鳥が来て何でも落して呉れた或日その國の王子が嫁を探すために宴會を催した。二人の娘は美しく着飾つて出て行つたが灰娘だけは繼母が出て呉れない。さうして一皿の灰の中の豆を二時間で拾つたら出してやらうといふ、灰娘は外へ出て白鳥に拾つてもらつた。今度は二皿の灰の中の豆を一時間で拾へと命じた。それも難なく拾つたが、着物がなからと云つて聞

いて呉れない。娘は泣く／＼母の墓へ行つてお願いをするといつもの白鳥が来て綺麗な着物と立派な靴を落して呉れた。娘は喜んで宴會に出席したが王子は殊の外この灰娘が氣に入つて二人で舞踏をやられた。王子は娘の歸りをつけて行かれると初めは鳩小屋には入り、二度目は梨の木に上つてしまつてその姿がわからない。三度目には松やにで娘の一方の靴をどつて訪ねてゆかれると、妹娘二人は自分達が王姫になりたと思つて足の指を切つたりかゞとを切つたりして灰娘の靴にあはせ様としたが、みんな失敗して二人共鳩のために目玉を取られて死んでしまつて、灰娘だけが立派に王子の皇后になつた。そんな話は薄倅な娘の衣食住に對する慾求から造られたお伽であります。

六、性慾の實現

衣食に次で、強烈なる本能は性慾である。この願望の實現が多くのお伽を造つて

ゐることが澤山あります。それも親子間の情愛の如きは極めて早くから表はれて、男兒は母親を、女兒は父親を愛し、父親は女兒を、母親は男兒を愛着する多くの話が昔から傳へられてゐます。而して此等は慥かに性的で後年の性的生活の端緒となるものであります。

(編者云、この性慾の實現に關するお祈に就いては久保先生がすでに本年二月號の日曜教園に「お祈の精神分析」と題して詳細懇切に説述されてありますから、こゝには全部日曜教園にゆづつてまだ見られない方は、その十二頁から、二十四頁までの記事を一讀して下さい)

七、説明慾の實現

科學的知識の缺乏した、想像力の高い原始時代の人々は日月星辰の運行や、日蝕、月蝕、その他一切の自然界の神祕を説明せんとする慾望に満たされてゐましたが、こ

の慾求を満足せしめるために古來、また多くのお祈が造られて居ります。そしてよく天空の事變である風雨、雷電や霜、霧、雪等の神變不可思議な現象が低級な知識によりて色々に語り傳へられてゐます。アンデルセンの話の中にも一人の王が風神の所へ行つて林に遊んでゐると、四方が眞闇になつて、たゞ一線の光明が輝いてゐる。そこでそこに風神の子供達がやつて来て、母の來るのを待ち乍ら東西南北四方の風神の事を物語つて聞かせることがある。また英國のジャックフロストの霜の神は夜コツソリやつて来て、牛乳のビンや壺や、かめを破るといはれてゐます。この外、動物、植物等に對する話も澤山あつて、神代の我國の海鼠の由來や、印度五部經にのつてゐる古屋漏の話などはこの類には入るべきものであります。かくの如くにして、原始時代の人々はあらゆる、問題事物、現象に向つて、疑問の矢を發して満足なる解答を話につくり、之を讀んで喜んだのであるが、現今の人々は平生緊張した生活を續けてゐるから一時原始的狀態に歸つて之を遅緩せしめる所の一種の緩和劑として、之等のお祈を

讀むことを樂しむのであります。けれども子供達は原始時代の人々と大差ありませんから、原始民族と同様の欲望を有しその欲望を満足せしむる爲に童話を喜んで讀むのであります。

以上述べました所により子供の持つてゐる種々雑多の欲望を實現させんとして得られない時にその満足の一方法として現はれて來るものが、童話であるといふ私の考を凡そ御分かりになつたらうと思ひます。

八、童話構成の要件

傳説・神話・お囃・童話等を作成した著者や民族、又之を見聞して喜ぶ者の心底に横はる動機を以て、予は各種の欲望の實現であるとした。然らば此等の話の中で童話を構成するには如何なる條件が必要であるかといふに、之を五種に大別することが出来ます。

一、童話は時間空間の觀念を超絶すること、傳説等には一定の時と場所によつて規定されることが多いが、童話は時所の觀念を全く超越して居ります。勿論事柄は過去の事として話さるゝが、その時は漠然として話され、場所も大抵は漠然と方向を示して居ります。西の島から、東の國から等と云つて不定辭を用ふ、吾々は花咲爺が何時の時代にどんな場所に居つたかは知らないが、此の時間、空間を超絶せる處が子供の精神状態に適合せるを見るのであつて、又必要なことであります、五六歳の子供が時計の時間、電車の番號を讀むものあるもそは大人に於ける様な明確な時間や數の觀念を有するものでない。又時間の觀念の比較的明らかになつた年長の子供に對しても、童話に於ては一定の時間、一定の場所を定むることは子供の想像的觀念を害するものであつて、それは價値のないものであります。

二、童話は子供らしいと云ふこと、即ち話は子供相手であるから兒童の想像觀念は世間の話ではその想像と理解とに苦しむのであります。例へば印度に於て五部經の序

文により經の由來を見るに、かつて王が立派な學者を招聘してその子供を教育したが教育の程度進まず、遂に國中の重臣と計つて三人の王子の教育法に就て計つた時一人の婆羅門僧があつて私が王子を教育すれば六ヶ月にて十分であると誓ひ、王子を連れ歸つて六ヶ月にて克くこれを教育した。その教育の爲に用ひたものが即ち五部經であると書いてある。これによると前の學者は王子に對する教育法を誤つてゐたものに相違なく後者の成功は克く教育の法を知つたものでありませう。古來より有名なるお伽噺は凡て子供らしく出來上つて居り、彼等の經驗、思想等に克く適合して居るやうに思はれます。

三、童話は科學的知識を超越してゐること、勿論理科物語等は例外であるが、凡て子供らしい話には科學的知識を超越することが必要であります。性的觀念の發達せざる子供には桃太郎は桃の中から出て來たものであると話して十分であつて頭を亂す如き憂は少しもなく却つて其の話の味を知るのである。數の觀念の發達せざる者には大

金持があつたと話して結構である、數等を細かく言ふと却つて想像作用を鈍らせて良くない。巨人が一足に十哩、百哩を歩くとか隠れ笠や天眼通等のことは今日科學的知識と相容れない。しかし其が童話の童話たる所である。尤も理科物語や動物お伽噺までも非科學的に話せと云ふのでない、夫等はなるべくお伽氣分を失はずして目的に叶ふ様にせねばなりません。

四、教訓を主なる目的としてゐないこと、童話の多くは別に教訓に拘泥して居ない尤も今昔物語イソップ等は物語の下に必ず格言を添へてゐる。其他の童話にも此の傾向があるものがある。併し幼時の生活は主として本能生活であつて其の行爲に善惡は無いのみならず彼等の行爲に善惡の判定をするのは成人の判斷の結果である。従つて傳統的なる善惡に束縛せられずして、自由放膽である。殊に近來精神を分析するに至りて我々の行爲は善にも惡にも非ず、憤怒、憎惡、嫉妬、恐怖等も本能其物は惡ではない。従てこれを善導することによつて善となるのであつて子供の本能は少しも惡で

はない故に餘り見わすぎたる童話は避く可きである、私は教訓を童話の中に入るゝことを拒むものでないが、其を主目的とすべきでなく、又その種類も消極的なるよりも積極的の教訓を用ふることが宜しい。その方が却つて子供の本性に適合するものであります。

五、藝術的作品なること、童話は前述の如く科學的知識や教訓を授くることは二次目的で寧ろ我々の心裡に横はれる慾求を満足せしむる爲の一の藝術的作品でなければなりません。童話是一種の藝術品であるから子供に童話の無き時は子供の精神は實に寂寞たるものになりませう。但し童話の種類によりては子供の精神を涵養することもあるし、又害ふこともあるから餘程童話の種類や取扱方に注意しなければなりません。

九、童話の教育的價值

童話を非常に謳歌するものによると兒童の最初に要求するものは食物である、進み

て玩具を欲し更に童話を要求するものであると、満一歳迄は見るもの觸れるもの皆口にもつて行く即ち飲食の本能が彼等の全生活である。二歳三歳になると五官の働が發達して來て、色彩音等を見分け聞き分け、動物等に接觸して喜びます。四歳頃から後は玩具や遊具の外に童話の要求が生じて來ます。蓋し知識や感情が著しく發達し、自然・社會・人生等に向つて抑えきれない興味が生じて來ます。而して此の好奇的求知心を充たし且つは彼等に軟かな穩やかなる感情を與ふるものは即ちお囁であります。

かやうに童話が兒童の要求するところとなり、彼等に教育的價值あることは誰しも認めてゐる所であるが、其は何故に彼等の慾求の對象となり、又教育的價值のあるかに就て明かに説明したものは尠ない。試みに子供に尋ねて見ると只面白いから聞きたいと答へるに過ぎない。中にはその一部分の事實、例へば冒險的行爲又は擬人的事項を擧げて面白いからと答へるものもあるが、何故に好きかといふことが出來ない。假令大人のやうな分析力のあるにしても恐らく不可能であらう。蓋し童話を好むのは兒

童の本性でありまして喧嘩をすると同様な本性であります。童話を好まない子供は少いが若しあるとしたならばそれは精神的に缺陷のあるものであります。然らば童話は何故に好まれるかと云ふに吾人々類の進化に最も必要であつた諸種の慾求の實現であるからであります。これ等の慾求は相應に深きものであるから抑壓さるべきものではなくそは何等かの形式に於て發表せなければなりません。子供の心に潜んでゐる慾求は單に童話に表はるゝのみでなく、例へば友人の無い兒童に就て觀察して見ると、この兒童は想像的友人を有つて居る。蓋し人間は本來群居的動物であつて到底獨居しては生存することの困難なものであるからである。合衆國にて想像的友人を有するもの四百八十一人を調査したるに其の中半数は一人子であつたと云ふことである、然し此の想像的の友人等は幼稚園より進んで學校に入るに至りて自然消滅するものでありますかつて私が合衆國の大學に居た時モロドといふ女の子に就て想像の人格化せるものを見ました。其にはマーガレットとマルサといふ二人の想像的の女の友達がありまして

前者は性質のよい子で後者は意地悪の娘で、種々と面白いことをしたのであります。斯様な例は實に澤山ありまして、私の友人デー君も子供の時想像的頭腦非常に發達して五歳にして新聞の發行を思ひ立ち發行に關する總てのことをなし八歳にして會計報告損益決算等をもして居ります。然し十一二歳に至りて此の仕事は全然廢止されてしまつた。即ち現實の世界と空想の世界とを知り空想の世界を捨てるに至つたものであります。他の友達のパオルサムも子供の時代に糸巻を人格化し、それに各種の階級、民族の區別を立て、時として烈しい戦争をするやうなこともあつたといふことであります。又立派な一冊の本として公にされて居るユナメリは想像的人物の爲めに時として大に苦しめられ十二三歳に至りて益々反抗的態度が烈しくなつて統一するに非常に困難を感じたといふことであります。

斯様に想像的慾求が烈しくなると、其を實現する爲めに種々の方法を用ゆるのであります。故に童話のやうなものを用ひてこれ等の慾求を發散せしむる様に努力するは

必要なことであると思ひます。即ち童話の主たる教育的價値は昇華作用(純化作用)にあると思ひます。かの化學などで固體から液體とならずして、直ちに氣體となることを昇華と言つて居るが、吾人の欲求も他に變形することなく、直ちに氣體となりて發散せしむることが必要であります。蓋し吾人の本能の働を全然無きものにすることは不可能であるから、これを純化せしむることに努力せねばならぬ。而して此の昇華作用は兒童に於ては意識的に行ふことは困難であるから無意識の間に純化されるやうにしなければならぬ。而して其方法の中で童話を用ふることが最も賢きことであると思ひます。

社會の風習、父母の命令、教師の訓戒等は缺く可らざるものなれども眞向にせらるゝ爲に強きに過ぎて、恰も石と金を打ち合して火の出る様に却つて反抗心を起して、其に拮抗するか、或は他の悪い方へ針路を向けるやうになります。所が此處に童話を用ひて無意識の間に之を陶冶すると、別に際立つことなく漸次に純化されて行くので

あります。殊に制限のない自由な甘い夢のやうな空想及び空想實現的生活をして居る幼兒に對して、彼等が神の如くに信する父母や教師の口から、心靜かに喜悅に満ちた家庭に於て、或は生々とした注意と純な心情に満ちた教室に於て童話を聞かしたならばその教育的感化を兒童に與ふることの如何に大なるかは言はずして明かなことでもあります。

以上は童話の根本的教育價値であるが、この他二三の枝葉的價値がある。例へば童話は欲望が實現される爲に快感を興へ、従つて緊張せる心を軟げ教師と生徒の感情は融和される。又生徒は興味を以て童話に傾注する爲めに彼等の注意集中の習慣を養成するに益する所が多い、又子供が話す者に慕ふて來る状態は信者が宗教家に向つた時の様で自然と訓育的陶冶が比較的容易に行はれるのであります。

十、童話選擇の標準

既に兒童が童話を何故に喜ぶか、それを構成する條件、童話の教育的價値を述べたので、吾人の要求する童話は如何なるものであるかは粗ぼ明かになつた。しかし更に童話選擇の標準として附加すべき二三の綱目に就て補充的に説明しやうと思ひます。

一、子供の精神的發達に適合せるものを選択すること。

同一の事柄でも個人に依りて互に相違することあり、フロイドの取扱つた子供は五歳の時既に性に關する問題で心内の争闘を惹起して居る。アンナといふ女は三歳の時子供の起源に關して疑問を生じた。(詳細は久保學士著精神分析法第四章にあり) 斯様なことは幾つもあるが童話をして教育的價値あらしむる爲には、兒童間の個人の發育を知るべきである。童話の内容が兒童の欲求に應ずる計りでなく、その欲求を純化せしむる爲には兒童の理解力の發達を知らなければならぬ。尙純化の基礎は見聞し理解し得る範圍内でやらなければ、益なきのみならず往々害を來すことがある。例へば性慾の話等は餘り露骨に失しては早熟ならしむる弊害あれども全然抑壓することも考ふ

べきであり、理解の程度によりて適度に話さるべきであると思ふ。之と同様に各種の方面について童話を選択するにも兒童の理解力を標準にしなければならぬ。即ち子供の心になつてすることが必要であると思ひます。

二、國民性の異同に注意すること。現今我國の童話の九分迄は皆外國の物である、數少き日本童話の中にて材料缺乏を補はんとて猥りに外國の童話を翻譯することは慎むべきことである、即ち國民性を大いに考へなければならぬと思ひます。我國が多くゝの點に於て世界的になり來れる今日にては、童話に於ても世界的のものを要求してゐるのであるから國民性に就ては國民の向ふ所を常に研究する事が必要である。同時に又日曜學校などで用ゆる童話には多數國民の心底に横はる宗教的信仰を童話の中に入れて不知不識の間に完全なる國民性が涵養されるやうにしなければならぬと思ひます

三、此れ等の外童話は空想に過ぎないもの非科學的のものを避け、審美的情操を養ふもの道徳的思想に富むものを選ぶ等の種々の項目があるが此の方面のことは既に諸

君の方に於て十分研究されてゐることゝ信じますから茲には省くことゝします。

十一、童話の取扱方

これは童話を如何に話すかの問題であります。此の事は既に實驗せられてゐる諸君の前で話すのは却つて愚でありますが理論上一言附加しようと思ひます。それには先づ兒童の方面より見たる説話者の注意と話手より見たる兒童の注意とであります。而して前者は子供をしてその話に興味を持たせるやうにすることであり、然らば如何なる風の話方が子供に好まれるかといふに、

一、事件が引續き生じ説明や叙述に變化のあるもの。

子供は一般に短かいものを好まない、日比谷の圖書館にて兒童の讀み物を調査した結果によると長きものを好むことが統計上に表はれたのであります。蓋し其の理由は簡單にして變化に乏しいからである。中にも幼い兒童は全篇の統一といふことに頓着

せず利那々々の變化を喜ぶものである。従つて話す人の中には往々技巧を弄して論理的關係を等閑にする人があるが、其は策を得たるものと言ふことが出来ない。論理的思想を以て知らず／＼の間に均齊的美感を兒童に注入せしむることは重要なことであると思ひます。

二、現はれてくるものが凡て平生、目に慣れたものであるが併し何となく神秘的なるものなる事。

かの冒険談怪談等に於て尤もよくこれを見ることが出来ます。所がこれ等は極端に走り易く根據なき事を説き不必要な迷信や恐怖を引起す傾向があるから、話者は餘程この點に注意しなければなりません。

三、話の中に現はるゝものが活動性を帯びて居ること。

兒童が明快活動の物を好んで、幽暗、沈滞のものを嫌ふといふことは既に世人の熟知する所である。玩具でも遊具でも靜止のものよりも活動するものを喜ぶ。話に於て

も然りて、話中の人物・犬・猿・雉子等は勿論、日常生活では静止せるものでも人格化して考ふることを喜ぶものであります。

四、事件が混雑せず直截的のものなること。

これは年齢によつて相違がありますが一般に直截簡明を喜ぶものであります。即ち聞く方にも甲乙の人物が錯雑しては興を添へない。意味深遠な語句や譬句の如きは耳に訴ふる話には成るべく避くべきで若しやむなく用ふる時には彼等の理解を限度としなければならぬ。

内容を直截的にするには、先づお噺を分解してその性質を知り、重き意味をなせる點を究め、而して後話の主眼點に至る道筋を定めてこれに依つて話すのである。又話中の人物の多過ぎる時には通常主人公の見地より話し、始終その見地を變へてはならぬ。これに反して短いものを擴大し明瞭ならしむるには話を改めることである。此の時は話を分解して細目を發見し文字外の意味をも發見し力強いものは最後に置く方が

良いと思ひます。

十二、童話者の注意すべき事項

次に童話者の方より見たる時の注意事項に就いて二三を列挙すると。

一、其の話が充分自分のものになつてゐるものを話すこと。

話す前にその話の要件や系統や思想や情緒等は如何なるものであるかを能く咀嚼し了解しなければならぬ。蓋しお話には夫々特殊の性質氣分等があるから、それを十分體得する必要がある。例へばアンデルゼンの哀話と希臘悲劇とは全く其趣を異にして居るから、話者は其の情緒的異同を理解しなければならぬ。尤もこの理解に消極的と積極的とがある。積極的理解は正常なる理解を増すやうに努めつゝ自己の感情を養ふ事で、消極的理解は自ら感じないお話をしてはならぬといふことである。斯様に取捨選擇をなして自分に適合せるものに就て益々努力をしなければならぬ。かくしてお話

を十分體得した者は同一の事を繰返すこともなく、前後が顛倒することもなく自由に舌端から流れ出る様に話すことが出来るのである。それには是非とも第一に話の要素を分析して骨組を造り上げ、而して後叙述や脚色等に注意して肉をつけるやうにしなければならぬ。而して幾度も反覆して大丈夫と思つた後に話すべきであります。

二、自身が話に依つて得たる同様な印象を聴衆に與ふること。

話の氣分は快話にして明晰なることが必要であります。話す者が氣分を爽快に持つと、児童も自然生氣を帯びてくる。若し既に數回反覆した爲めに興味を失つて居る場合には努めて興味あるやうな風をする。さうするとその間に自然に興味が湧いてくるものである。但しそれは自己一流の主觀的氣分を聴衆に強ゆるといふ意味でない。かのゲーテがハートより出でたる者に非ずんば眞のハートに通せしむること能はずと云つたやうに、聴者を感動せしむるには話者の心と聴者の心が相通ふやうにすべきであるといふ意味であります。

三、外形に關する種々の事柄に注意すること。

話の内容が單純にして而かも變化あるものを選ぶと同じく、話者の態度も單純に且つ變化に富むやうにすべきであります。しかしその表情は自然であるべきで、わざとらしいことは全然禁止すべきであります。又表情は説明的よりは暗示的の方がよい。話者がお話中の役を演ずるのでなくして、聴者をしてその光景を想像せしむるにあるのであります。而して話者が自分の心眼で事件及人物を明晰に力強く見れば見る程、この暗示は確實性を帯びて來ます、尤も中には表情の出來ないといふ人があるが、其はお話の性質に同化し、同一の情緒を感じるやうになると身體もそれに應じて動くやうになるものであります、此の外種々の瑣細なる注意が尙多くありますが、それは實際にお話をされる諸君の前では別に云ふ必要はないと思ひますから、この位にして話者の注意事項を止めて置きます。

以上長々と述べましたが、凡そ児童の研究は實際に困難なる問題でありまして、一

方には學術的の立場よりして科學的に研究を進むるものもあり、又一方にては何處迄も實際に重きを置きて實際上から議論を進めて行かうとする者があります、處が理論家は餘りに理論に走つて實際を省みず、實際家は常識的に流れて學理を顧慮しないといふ風で、爲めに兒童研究も發達を阻害されることが夥しいのであります、尤も實際と學術とは調和せざることが多くありますけれど、研究としての進路實際家は實際家としての任務を互に自覺して一方に偏せず、互に相提携協力して兒童の福祉を増進することが必要であると思ひます。

日曜學校に採用すべきお伽の種類

北 畠 貞 顯

一、お伽の立場

全國到る所其地方々々によつて日曜學校の趣きが異ふでしやうが當面の問題を研究するに當つて日曜學校兒童の年齢即ちお伽をする對象を約八歳から十四五歳までと假定して立案したのである。學校によつては夫より已下の子供もあらうが話に最も興味を有つのは尋常三年生位から高等一二年生まで、ある而して此等の兒童は多く小學校に通ひ嚴格な監督の下に日々學業に奮勵して居るのであるから夫等の子供を捕へて偶の日曜に小六ヶ敷い話を提供して無暗に子供の頭を苦しめる様な事は如何であらうか、少くともお伽と云ふ立場から考へると寧ろ彼等に愉快を感せしめ慰安を與へて

やりたいものであると云ふ意見が會合の最初からの議論であつて私も之に賛成してゐたのである。此立場から考へるとお伽噺を演る人は如何しても子供の御機嫌を取る極言すれば體裁のよい子供の仲間であるとの心得を以て子供に臨まねばならぬと云ふ説も出た。斯る立場に立つてお伽噺を選択すると云ふ事になれば勢ひ子供に興味あるものを選ばねばならぬと云ふ結論に到達するのは云ふまでもない。

諸氏も御承知の事であるが西洋でも東洋でも所謂ストリーズ即ち面白き話は可なり古うから發達したものである、最古に於て神話、傳説、又は旅行家の懷舊談と云ふ様な種々の起原で夫れに東洋的色彩を有する、ソングフルストリーズが加味されて、ストリーズと云ふ物が中世から近世へかけて大に發達した。けれども其話は興味中心であつて殊に當時歐洲の上流社會で大變流行して紳士、淑女、王侯、縉紳の間には是非なくてはならぬものとなつた。日本でも斯る順序で發達して居る、即ち平安朝時代にお伽草紙と云ふものが出來夫には「鉢かつぎ」、「一寸坊師」、「浦島太郎」、「大江山酒

呑童子」、等の話が二十四五種も集めてあつて草紙の名の下に廣く流行して居り殊に上流社會に持囃されて之を知らぬば上流社會の恥辱であると思はれて居る。斯る風でお話は古の起りから既に、興味中心であつた、今日では夫れが只一部の人に喜ばれるばかりで無く獨乙のフレイベルが幼稚園に採用してからは歐米諸國では小學校の教科書にまで採用する様になり日本でも教師たる已上はお伽噺をやらなければならぬと云ふ程に教育上の價值を認めてきた。夫れにしても尙ほ且お伽噺は興味中心でなくてはならぬ。

お伽噺の使命とも云ふ可き喜びを子供に宣傳する事である即ち人間が美に對して感ずる情操、美を愛する感情を刺戟して之を涵養するのが其使命である尤も此外種々の効能もあらうがお伽噺に關して吾々が第一に高唱す可きは是である。

二、お伽噺の種類

然らばお伽噺を採用するに當つては何でも興味を中心として選擇すればよいと云ふ結論になるが其興味中心の話とは如何なるものであるか、一番子供の面白がる話は如何なるものかと云ふと先づ第一に指を屈す可きは神仙談即ちフェアリー、テールズ又は不思議談即ちワンダフルストーリーである。

第一、神仙談又は不思議談。これは西洋のものに多くありまして大抵タイプが定まつて居る。主人公は必ず年老ひた魔力を有する婦人で、手には銀の杖を持ち足には赤き靴を穿きて居るのが普通御定りの服装である而して其銀の杖を振つて種々の不思議を現はす、杖が一度犬に觸れると犬が忽ち子供となり子供に觸れば忽ち犬になり杖の動く所意のまゝにならざるなしと云ふ魔力をもつて居て其の婦人の赴く所何物も彼女を防ぐるものなしと云ふ勢ひのものである斯る種類の話が一度話題にのぼると子供は目を圓くして此次に如何な事をやらう此出は何が出てくるだらう、次は何？次は何？と熱心に其の婦人の一言一句一舉一動を注意して婦人の進む所ごん／＼子供が後

を追ひかけて婦人の懐に持つて居る話を全部聞き終はらねば止まぬと云ふ意氣を示すものである。これが普通のフェアリーテールであるが其魔力が只婦人のみに止まらずして時として子供や動物に乗り移つたり或は品物に乗り移つたりする例へば鍵に魔力が乗り移つて其鍵が所有秘密の藏を開いてゆく等と云ふ事がある、又例へば彼の水田光氏の書いた「御話の仕方」の終りの方にある「權三虫」と云ふ面白い話等は彦山權現の古下駄に一種の魔力を與へ其下駄を穿いて倒れる度毎に下から金が出る様にしてある。兎に角これらの話は極まりなき子供の好奇心を刺戟して彼等を面白がらせるのである、故に若しお伽噺は興味中心のものであると云ふ事に間違ひがないとすれば、フェアリーテールがお伽噺として最も適當なものであると云つて差支なからうと思ふ。

去りながらフェアリーテールは常に奇怪である面白いと云ふのみならず其所には一種犯す可からざる威嚴を具へ道德的教訓の何物をかを暗示することに注意しなければ

ばならぬ。彼の魔力を有する婦人は善人に與するか悪人に與するかと云ふと多くは善人に與し善事を助ける。例へば其魔力が善良な娘に乗り移つた場合には娘が言を云ふ度毎に其口から金銀財寶が飛び出す。悪い娘に乗り移つた時には其口から蛙が飛び出すと云ふ風である。又彼の花咲爺の話にしても善い爺さんの手から撒かれた灰は枯木に花を咲かして殿様の御褒美にあづかり悪い爺さんの手から撒かれた灰は殿様の目にはいつて大變なお叱を受ける、これらは只面白いのみでなく其中に大なる教訓的の何ものか含まれて居て子供が面白く聞いてゐる中に自然に其意味を理解してくる即ち初めは魔力をもつたお化けの様なものだと思ふて居るが成長するに従つて魔力あるフェアリーは假りに作つたものであることを知り、假装のフェアリーが力を失ふて其中に含まれたる道德的要素即ち話の骨子になるものだけが心に残つて非常な力を與へる故に面白き話即ちフェアリーテールは教育上大に効果あるものである。

第二、滑稽談。興味中心のお伽でもう一つ御話したいのは、ラツフィングストリ

即ち滑稽談である、ラツヒイニングストリは殊によると、ノンセンステール、無意義談とも云はれて居る、無意義談は換言すれば滑稽談である。これからは全然滑稽に初まつて滑稽に終り聞く者をして抱腹絶倒せしむる。一體笑ふと云ふものは血液の循環をよくし心の緊張を弛るめる事は諸氏も御承知の通りで此點に於て滑稽談は大變効能のあるものである。話を聞く中に面白い所にいたると子供はやん／＼云ひ手を拍つて喜ぶ斯くて子供の神経が非常に興奮する此の場合が子供の神経を心地よく刺戟することが子供の健康上尠なからざる利益がある。お伽は子供に愉快慰安を與へるのが第一の着眼點であるから無意義談はフェアリーテールと共にお伽の最も大切な地位を占めるものであると思ふ。

偕て滑稽談と云へば只笑はすのみで其外に何等取る可き所はないかと云ふに、諸氏も御承知の如く中々然ではない。凡て滑稽談と云ふものは吾々が普通の眼には何でもない様な些細な事を大變誇張して話し或は書いてある。子供には一寸の事を誇大的に

云ふ特長があるが滑稽談は何でもない事を誇張して云ふから笑かしくなるのである。而も其間に云ふに云はれぬ一種の諷刺を含んで居て、即ち滑稽談は餘程諷刺的のものである。

日本にある古い話であるが、或所に新らしく一人の下婢を雇つた、所が其下婢は大變よく働く、朝はまだ人の起きない内から起きて家の拭掃除をやる、庭を掃く、主人の起きる頃には煙草盆まで奇麗に手入れをしてあると云ふ風で主人も誠によい者を手に入れたと喜んで居た。或時主人が風邪の氣味で床に就いた。何か用事が出来たので頻りに手を拍つて例の下婢を呼べども返事がない。如何したのかと思つて待つて居ると漸くしてやつてきたから主人が云ふには『俺はさつきから頻りにお前を呼んで居たのに一向お前は出てこなかつたが一體如何したのか大方俺が病氣で寝て居ると思つて俺の云ふ事を聞いてくれないのだらう、夫れにしてはお前の平常とは異ふじやないか』とすると下婢が『否そうぢやありません。貴方が御病氣の様でしたから今朝は醫者を

呼びに參つて居ました』と答へたので主人も夫れはよく氣を付けてくれたと感心して居た。其晩になつて主人は大變熱が出て口が渴いたから水を貰らはうと下婢を呼んだが亦返事がない口が渴いて仕様がなから大聲で頻りに呼べども答へがない。漸くしてやつてきたから、あんなに呼んでいるのに何故來なかつたと詰問すると實は晩方から大變御苦しい様でしたからこれはもう長い事もあるまいと思つて今棺桶の注文に行つてきましたと答へた。滑稽談は大抵こんなものである、然し其一面にはよい諷刺が含まれて居る、此頃の青年には上長の人の御機嫌取りの爲めにのみ働く斯る粗忽屋が多いが然う云ふ者にはよい諷刺である。で斯る點に於て滑稽談は非常に高尚なものである。人間は正面から叱られるのは餘程きつく叱られても割合に感じないものであるが側面から巧みに諷刺されると非常にこたへるものである。所謂あてこすりではなく巧みに美的に諷刺されると強く感ずる茲に妙味があるのである。故に私は諷刺談をお伽嘲の第二に擧げる。評議會の際もこれに就いて種々の議論があつて或は斯る話をした後

で此話は斯く／＼の意味を云つたものであると話し、骨子を語るが可からうとか、否夫れでは折角面白い話をし乍がら後で子供の頭をぶつ様なものであるから不可ないと云ふ意見も出たのである而して話を聞いて居る中に何時の間にか其意味を覚わるのは可いが露骨に言ひ聞かすのは可くないと云ふのが定論であるからこれを注意して頂きたい。此頃出た書物の中で明に骨子を説明してあるのは幸田露伴氏の「寶の藏」と云ふ本が佛教經典中から材料を取つた高尚なものである、本書は話の歸結を示してお前達此話を聴いて如何思ふかと一々お囃に質問してあるが一般には歸結を與へぬ方がよいと云ふ事になつて居る。

吾々の考へでは讀物と話す場合とは餘程其趣が異ふと思ふ書物を子供に讀み聞かす場合には餘程書物に束縛せらるゝが夫れを口で話す時には話が其人の頭で一旦咀嚼せられ其人の人格を通じ、其人の人格に濾過されて子供に行き渡るのであるから茲に偉大な感化がある。人格によつて濾過されて子供に行き渡る！これが他の集りでなくて

日曜學校で宗教家たる諸氏がやられるので宗教家と云ふ人格を通じて話されるのであるから興味中心でやられても諸氏の道徳的理想が自然の間に子供にうつり道徳と興味が一緒になつて子供に大なる感化を與へるものであると思ふ。要するに日曜學校で採用するお囃として最推薦す可きは興味に富むものであり夫には今御話した二種が最も適當である。

第三、自然物愛護の話。評議會の時に斯る問題も出た、近來動物愛護と云ふことが大變喧しくなり大阪や京都には動物保護條令なるものまで出て居る時代であるから動物のみならず廣く自然物を愛護する精神を子供に涵養せしむる方法がないかと云ふのである。これに對して、出来るものならお囃の中へ自然物愛護と云ふことを取り入れて話すがよからうと云ふ事に話が進んだのである、此事は私も餘程結構であると思ふと同時に又お囃を以て巧に面白く其目的を達しうるものであると思ふ。元來動物や植物に對して愛護の念の薄いのは之に對して同情心なきに原因するは云ふまでもな

い。所が然らば自然物に對して同情心を起さしむるには如何すればよいかと云ふにこれには種々の考案工夫を要する。人間同志であつても年齢職業又は家庭、境遇が異ると自分と異つた人を了解する事は仲々困難で、理解が無ければ同情は起らない。だから職業や境遇の異ふ人に同情をもつと云ふことは六か敷いものである。田舎の人が大根や芋を持つて都會の親類か友人の家へ來て十日も滞在せられたら此物價の高い時節にたまつたものでない。斯る人は都會生活と云ふものを了解して居ないのである、所が又都の人が田舎へ行くのに極ハイカラな、リボンや飛行器の模型と云ふた様なものを土産に持つて行くも田舎では却つて迷惑に思ふかもしれぬ、田舎の土産には田舎に適したものを持つべきである。兎角生活や境遇が異ると同情しにくいものである。が然し吾々と如何に生活境遇の異ふものでもこれが文學者の手によつて書かれ文學者の非常に強い想像力を以て或人物に就て巧みに述べられて居る場合には思はず其文章に釣り込まれて其人物に強き同情の念を起す而して其人物と共に泣き共に喜び共に怒る

と云ふ様なことは大文豪の小説稗史等を讀んだ時に常に經驗する所である。これと同様に人間と全然異つた動植物であつても其自然物に就て話すに當つて想像を逞しくし出来るだけ優美に高尚に説明すれば子供は之に對して充分理解し必ず同情心を起す様になる。野上講師の御話にも出た様に子供は非常に想像力に富むものである。而して自然現象や動物植物の形狀性質運動或は生活方法に對し多大の興味を有し、大なる想像力を以て常に之を人格化して見る。此子供の想像力を利用してお伽をやる人が自然物を人格的に取扱ひ彼等の運動や生活の模様等を人間の如くに説明すると同時に優美に且つ巧みに話して興味を感じる様にすれば自然愛護の念を起すであらうと思ふ。

暖かい小春日の午後太郎とお花が野邊へ遊びにいつた。其所は一面の麥畑で黄色く實のつた穂が微風に波を打ち空には雲雀が元氣よく囀つて居た、太郎とお花は囀づり乍ら高く／＼舞ひあがりやがて石を投げる様に畑の中へ落ちて又舞上る、雲雀を面白さうに眺めて居たが、「太郎さん、雲雀は何しに畑の中へ落ちるの？」とお花がきく

と「あれは屹度あそこに巢があるからだらう」と太郎が答へる。「雲雀の巢！妾見たいわ」と云つて居る所へ一匹の雲雀が舞下りてきた。二人は直ぐかけつけて見たけれども其所には雲雀も雲雀の巢もなかつた。二人は彼所此所と探がして居る中に落ちた所から五間も向ふに巢があつて親鳥が其上に屈がんで居るのを見付けた。……これは雲雀が巢の有る所を見付けられまいと思つて、わざ／＼巢の無い所へ下りるのである、雲雀でも自分の子供を保護する爲に種々の深い考を持つて居ると云ふことを説明し更に其親雲雀が太郎とお花に向つて自分は如何なにして子供を育て、居るか、可愛子供を大きくしてやらうと思つてごんなに苦心して居るかど云ふことを話し、「だから太郎さんもお花さんも後生だから私の巢を取つたり子供を虐待たりしないでをいて下さい」と云つて頼んだと云ふ風に親子の情を含めて説明すれば子供は彼等も人間と同じもので可愛いものだど云ふ考を起し知らず／＼彼等を愛護する様になる。

又例へば朝顔は何故垣に巻き附くかと云ふことを説明するにしても、

垣の上の方に雀が巢を作つて居ました。所が或時親雀が子雀に向つて『此巢の下に朝顔があつて毎朝／＼大變綺麗な花が咲くよ、お母さんは毎日あの花を見るのを楽しみにして起る、お前達は巢の中に居るから見る事が出来ませんが本當に綺麗ですよ』と云ふと子雀共は目を圓くして『そんなに綺麗な花！僕達も見たいな』と云つて頻りに見たがつて居ました。朝顔は此話を聞いて、如何かして子雀にも妾の美しい所を見せてやりたいものだと思ひました、それから毎日自分の蔓を一寸のばし二寸のばしだん／＼上の方へ伸ばしていきました……斯云ふ風に話せば動物と植物とを配して其間に麗しい同情心を起さしめることができる。然し斯る天然物や動植物を題材に取つて話す場合も無論お囃の主眼たる聞く者に興味を興へると云ふことは片時も忘れてはならぬ。喜ばすと云ふことを第一要件として其中に動植物の愛護と云ふことを取り込むのである。

第四、理科的お囃。近來子供に理科思想の養成と云ふことが盛に論せられる様に

なり理化的なお話が流行る。これも甚だ結構であるが極めて六か敷いことである。理科思想を養ふには第一に正確でなければならぬ、所がお伽の如き興味をもたす話は正確にはゆかぬ。理科はどこまでも四角な定規的なものであるがお伽は圓の様なのである此性質の反対な角と圓とを融合して有益な面白い話をつくと云ふ事は容易の業でない。歐米の書物を見ても理化的お伽は極少くないあつても内容が弱貧で不可ない。日本のお伽の大家の中には理科をお伽の形式に組み立てる事は絶対に不可能でお伽の精神にも反するが理科の性質にも背くと云ふ説を立てる人がある。此れも委員会に於ても未だ深くは研究してないのであるが一方子供の方から考へてみると高等科の生徒等になると毎週日曜學校へはくるが日曜學校ではお伽ばかり聞かせられる、それも面白いには面白いがあれは假作で何んにも爲にはならんと云ふ子供がある、又中には伶俐な子供になると此頃の文明の利器等に對して興味をもち種々の質義をしてこれらに付て研究したがるものである。子供は大變質問を好む。或教育家は

子供の質問につけ込んで教へんとするは誤つて居るが兎角日曜學校へ来る子供の中に斯る質問をする子供があるから然云う子供には理科的な話を取り來つて話すのも可からうと思ふがこれは未だ薄弱な未定の問題である。此頃理科お伽と云ふ様なものがポツ／＼出てくるから幾等か教材も得られる事と思ふが諸氏は夫によるとか或はもつと異つた方面に付て理科お伽を創作してお話されるも時として可いと思ふ。

例へば花と虫、即ち薔薇と蜂との關係を話に仕組んだものがある。

或國の王様に一人の娘さんがあつた、何分にもたつた一人娘で其上に器量がよくて性質も至つて優しい誠によいお姫さまでしたから王様は大變に可愛がつて居られました。或時の事王様は姫も年頃になつたから御聲さんを貰はねばならぬ夫れには此國で一番賢い者を聲にしたいと考へられました國中へ御布令を出して若い男を御呼び寄せになりました。御殿の客室には澤山の薔薇の花が列べて用意がしてあります。而も其花は皆造花で御姫様が作られたのです。けれども其お姫様は大變造花が上手なので本

當の花と一寸も違ひませんから誰が見ても造花だと思ふものはありません。其中にたつた一本だけ本當の薔薇の花が置いてありますこれが其國の男の智慧を試す爲の計略でありました斯うして一人づゝ其室へつれてきて此中のどれが本當の花か當てさせましたけれども誰も當てるものではありません、其中に一人の賢い男が来て直ぐさま黙つて窓の戸を開きました、すると一匹の蜂がブーンと飛できて一つの花にとまりました其男は之を見ると直ぐ蜂の止まつた花を指してこれが本當の花ですと云つたので御聲さんになる事ができました。……と云ふ話があるがこれらは今少し更に進んで蜂が花粉を媒介する植物學上の原則を説明する様に仕組んでも宜しと思ふ。或は小學讀本には水の旅と云ふ水が水蒸氣となり水蒸氣が雨となり霰になり雪になり河水となりて海に注ぐ水の物理的變化を話にしたものもあり或は又藁から出来る紙、襪褌から出来た新聞と云ふ様な紙の出来る順序を話にしたものである。これからも自然物を人格化して水に物を云はせ藁や花に語らせる様にすれば御伽噺によつて理科の教育が全然出来な

いこともない。

三、不適當なお伽噺

最後にお伽噺として不適當なものは如何なものであるか、

第一、迷信を助長せしむる話。子供は草木が物を云ひ魔力をもつた婦人が不思議な事をしたと云ふ様な話をして夫は年と共に消えて行くが現在世に流布してをる有りふれた迷信と類似する様なことを部分的にもせよ話中に取入れてあるとか全體がそんな話である様なものは迷信を助長せしめるから不可ぬ。

第二、一部の神仙談。一部のフエイヤリナール若はワンダフルストーリー、中に魔力の代表者不思議力が時として悪い方へ味方するのがある、私は或人から聞いた話であるが白蓮女と云ふお伽噺がある、夫は一人の女が愛宕山の天狗から蔭れ蓑を貰つた。其蓑を著ると身禮がわからなくなるので店頭の菓子を掴み取つても人間がわからない

で只菓子だけがズン／＼歩いて行く、其所で其装を着て種々の悪事をやると云ふ様な話であつた。斯くの如く話の筋によつては不思議な力が悪事の助けをする様なのがあつた。これはジゴマの活動寫真が子供の悪事を挑撥すると同様に日曜學校のお囃として宜敷ない。

第三、冒険談。冒険の主人公たる人物が種々な不正手段を以て他人を籠絡し或は間髪を容れざる間に巧みに危険を冒して法網をくゞり大成功を収めると云ふ様な話は子供の所謂摸倣心を挑撥するからよくない。子供には摸倣心がある。西洋の諺に人が悪い事をするに至る順序を適切に云つたのがあつた。即ち、第一誰でもする、第二、一度だけ、第三、これ位の事は、第四、吾々はまだ先が長い、此四つは悪魔が人を誘惑する條項であると云つて居る、殊に子供は摸倣したがるから冒険談の主人公を真似る事がある、故に日曜學校等で用ひてはよくない。

まだ話せば随分あるが大體已上述べた様な話が前後四回程の會合に出たので夫れを

取り総めて御話した次第であります。諸氏の中には私の云ふ所に反對の御意見の方もありませんが吾々の意見とてもまだ充分洗練された話でないで只會合の際話頭に出たことを御報告したに過ぎません。何れ已上御話した様な條件に該當する新作の話が出た時には「日曜教園」誌上に發表するかも知れません。(完)

お嘶の仕方

久留島 武彦

苟くも社會を救済しやうと云ふ場合に、或る階級或る程度の者でなければ救はれないと云ふのは難行道であつて、誰でも餘さず徹底的に救ふのは易行道であります。

而して社會救済に何處を根本として着手すべきか、何から先づ手を着けてかゝらなければならぬかと云ふに、その根本が乃ち子供であります。

埃及のナイル河は毎年其犯濫の爲に沿岸は豊かな土壤を持て來られる神様の様に有難い河であるが、又一面には鱷の害があつて恐ろしい河である。或る年の事何故か鱷が非常に殖へて、昨日も水汲みに行て一人やられた、今日も身を洗ひに行て一人やら

れたと、土民の愛ひ恐れる事は一通りでは無かつた、叶はぬ時の神頼み、ヲシリスの神にどうか此の災害を通れる様にとお願すると、神様は、「一匹の獸を授けやう、此を持って行くがよい」と云て渡された、獸は猫に似て小さく、兎に似て毛が柔かな、イクニウモンと云ふ獸であつた。土人は此が恐ろしい鱈を取る事が出来るか知らんと思つたが、何しろ神業の事であるから取れるに違ひないと思つて、一日河岸に持て行て放ちました、さア此から戦が始まると土人が見て居るとイクニウモンは鱈の姿を一目見るや雲霞と逃げて行く、此は神様の何かの思ひ違ひではあるまいか、と、土人は相手にもならず居ると、一方イクニウモンは鱈が居ないと河岸に出て砂を堀て居る、斯くして二三ヶ月過ぎますと鱈の姿は漸々少なくなつた。一年程過ぎると鱈は一匹も出ない様になつた、さてはイクニウモンが人の見て居る時は體裁が悪いので人の前では食合はないが人の見て居ない時にやるんだなと思つて居た、何ぞ計らむイクニウモンの餌食は鱈の卵であつた。卵を砂の中に入れて置いて天然の太陽の温度で生れる様に置いて

あるのをイクニウモンが堀返して食て居たのである。現在の鱈には戦はないが將來の鱈に戦て居たのである。此の理を知つた時初めて神様の思召が分つたのである。私等が社會と云ふ大鱈に向つた時は何處から手をつけてよいか分らない。然し手の着け所では手温い様でも實は早く徹底的に其目的を達するのである。此が實に子供ではあるまいか本派の事業は流石にと思つたのである。併し既に巖谷、岸部兩先輩によつて充分に聞いてゐられるから最早多くを述ぶる餘地が無い様である。然し私は一二私の經驗より得たる事實に就て述べたいと思ふ。

お伽の言葉に就て

言葉は既に諸君の方が経験者である、今更らしく申す必要もありませんまいけれども子供に對する言葉に就て申述べたいのである。

一體言葉に就て日本では言葉が少ないと云ふ人がある、特に形而學上の翻譯を爲す

時に言葉が足りないと言はれて居る。又此頃の書生の言葉は非常に窮窟な用ひ方をし居る、小學校の生徒が「僕は悲觀しちやつた」と云ひ、十二三の少女が「私共鳴してよ」と何と無く窮窟さを感じる、此の様に日本には言葉が足りないのだらうか新しい言葉が一つ出来る直ちに其を誰も用ひなければならぬ様に言葉の不足を感じて居るんだらうか、否日本は昔から「言靈の助くる國」「言靈の幸はふ國」と云はれた位で言葉の力に幸された國である事は歴史より認める事が出来るのである、一面事實に於て見ても言葉には自由な國であると思ふ材料が澤山ある。英語では二人稱の言葉は殆んど *you* 一つである、時々 *you*・*you*・*you* 等の言葉が付け加へられるが大體は *you* 一つで足りである、最愛の妻も、目上のものも、目下のものも、不倶戴天の仇敵も同じ *you* である。然るに日本は如何と云ふに、「アナタ」、「オンミ」、「ソナタ」、「ソチ」、「貴様」、「汝」、「ウヌ」、「オノレ」、「オマヘ」等まだ七つや十はあるでしやう。「ソサマ」、「ソモジ」、「ソチ」と用ひ分ける事によりて上下男女を分つ事が出来る。此に入て來た婦人に「ソ

モジは早く歸りやれ」と云ふのと「ウヌは早く歸れ」と云ふのとで單に語勢より來るものばかりでは無く日本獨特の内面的意味が含まれるのである。死と云ふ事實を表はす言葉にも、崩御、薨去、逝去、卒去の漢語は別として「オシニ」、「オハテ」、「オカクレ」等あり「マイツタ」、「ゴテタ」、「イツタ」等色々ある、鳥に對しては「オチタ」と云ひ金魚には「アガツタ」と云ふ、相反した言葉で死を表はし其の死んだものはどんなものであるか分る。

昔より一音一義、一行一義、と云ひアと云ふ音には大、包、樂、等の意味があり、カ行には強、堅、の音の意味があると云ふ所まで研究されて居る。然るに何故不自由の様であるかと云ふに、日本の封建時代には自分の意志を充分發表する事が出来なかつた。然し語る事は大切な事で宮中にも「語り部」と云て尊ばれたのである。伊勢、丹波、山城、美濃の六ヶ國の者が語り部を務めて歴代の事を語り續けて居た。後に地方の事も語る様になり、風土記に依る様なものも出來た。此處に於て「天語部」「國語

部」の二種が出来た。稗田の阿禮が大和國に宮に祭られる様になつた事は貴い事である。語部の數が多くなると天語部ノ連と云ふ高い官職まで置かれる様になつた。進んで封建時代が形づくられ親子夫婦も敵味方に分れる事あり、結婚も政略の方便に用ひられる様になり、友達、妻にも心を許す事が出来なくなつた。斯の如く自分の意志を充分に表はす事を禁せられたのが習慣となり遺傳となり太平の世となりても喋舌る事は避けられたのである。遺傳とは實に恐ろしいもので「口開いて虜見する蛙哉」と云て喋舌る事は自分の爲にならんと考へられた。進んで「雄辯は銀なり、沈黙は金なり」黙て居ると金だと云ふ風になり、黙て居ても人間は顔や手足や眼で語る事が出来る此を止める爲めに、「壁に耳あり」と云ひ自分の安全の爲めに自分が作た家まで自分を害するものであると考へ終には、「賢人は外見愚人の如し」と眼はどんよりとして顔色悪しく、口はだらりと開いて居るのが一番偉いと云ふ風になつて來た。かゝる境遇に六百年も養はれ遺傳となつたのである。遺傳程今日の教育學に大なる影響するものは無

い、此の中に立て千年前の國に逆もどり仕様とするには大なる努力がある。一通りや二通の苦心ではいけない。話し方は他の研究より餘程苦心した研究をしなければならぬ、子供に話す場合には尙更の事である、何となれば言葉が子供に及ぼす力が少ないからである、此に就て六の理由をあげて見ませう。

第一、子供には言葉の數が少ない事。

勿論年齢によりて異なるのであるが、押均して子供には言葉が少ない。尋常一年生には普通名詞ですら餘程注意しなければならない。越中の或る所で話した事がありましたが、猿と兎と蛙の話をしやうと思つて校長に尋ねて見ると蛙の事はギャワズと云ふ事を聞いて私も苦心して話したつもりであつた。後で巖谷君が「君先に校長に聞て居たでは無いか變な事を云て居たね」と云つたので、よく聞いて見るとギャエル、ギャエルと云て居たそうな、カヘルとギャワズと合してギャエルとなつたのでしやう。一言が分らないと前後の關係上其意味を推察すると言ふ様な事は子供には困難な事である

タケノコガサをタコロンバチと云ひカンヌシをホシヤドンと云ふ所がある。此の地方で標準語を用ひても子供には分らない、子供は普通名詞の持合せが少ない、努めて子供に話す時は其地方の言葉を知る事が必要である。姉と妹と二人で御菓子をもらう時姉は自分で三ツ取り妹に只の一ツ與へたぎりであつた。此處に云ひ合が始まつたがなか／＼面白い「姉さんは一ツと一ツと一ツ私はたつた一ツだわ」大人には三ツと云ふ言葉を持って居るが此を持たぬ時代の子供がある。

第二、言葉、を、解、釋、す、る、智、識、と、經、験、と、が、少、な、い、事。

同じ言葉を用ふる時は餘程注意しなければなりませぬ「足をカキで切つた」「私先日カキ食べたけども何とも無かつたわ」子供には牡蠣と柿と區別する事が出来ない。自分の經驗に一番近いものを取るのである、話すには極注意すべき事である。

第三、子、供、觀、念、は、混、線、し、易、き、事。

算術の時〇と書いて「此は何か」「レイであります」、「レイとは何だ」、「オジギする事であります」、彼等の經驗が足りないから校長が禮と云ふのを何時聞てもオジギさせられて居るので此様に答へたのである。先日私の總領娘が「明日は兵隊さんのをしりまくつた日だからお休みですよ」と云て歸て來た。何か間違だらうと云ても子供は中々承知しない。よく調べて見ると、國家の爲の死であるから敬語を用ひておしになつたと云はれたのを間違へたのであつた。私の幼稚園で乃木大將の歌を歌はせると、「先の御帝の御輦は」と云ふのをどうしても「にぐるまは」と歌ふのであります。此の様な混線が何時も起るので與へたと思つた印象が思はぬ異つた印象を與へる事がある。

第四、類、似、聯、想、の、作、用、が、盛、な、る、事。

子供の八ツ九ツまでは類似觀念のみ有て差別觀念が表はれて居ないのである。庭の石燈籠を見て踏張て居る人と見てどうしても便所へ子供は行かうとしない、父が石燈籠を叩いて見せても子供は承知するものでは無い、或る子供が父が他所から歸て來ると「弓は待ちくたびれて居るでしやうね」「何故」「頭としつぽと結んで朝から待てる

もの」と弓を以て全く人間か何かの様に考へて居るのである、此は全く類似觀念が作つて居るからである。神田で一度話した時に「御菓子の中からお金が出た」と云ふたら子供は「ワーツ」と笑つた。御菓子とおかしいと聯想したのらしい。子供のよく云ふ事で「真中まぐそ、はしつこ八幡太郎」まどま、はどはどの類似で他の全てを没却してしまふのである。此の種のものが極めて程度の低い文學に表はれて居る。駄洒落や語呂合せは此に屬すべきものであつて、一方から面が流れて來ると一方から板が流れて來てパンと當ると板が痛い／＼と云ふと面が「免ぢやい免ぢやい」と云つた、此は兩方から流れて來る等有り得べからざる事である。然しこんな事は問題にならない。此等は一番低級な文學趣味である。大人の間にも中々面白がられる。一方からお椀が流れて來一方からおちよこが流れて來た、カチンと當て「オハンチヨコエモン」此でもワーツは笑はせる事が出来る此が類似觀念である。話して居る時子供の頭の中には絶えず類似觀念が起らう／＼として居るから、他に轉じない様に極めて明確な言葉を用ふる事

が必要である。

第五、子供は絶対現實性を有せる事。

「昔々或る所にお爺さんとお婆さんが……」と話しても其の話は子供の頭の中では現實となつて働いて居る。「お婆さんが河でザブザブ……」と話せば自分が洗濯して居ると思ひ、大きな桃がドンブッコ、スッコッコと云ふと子供が桃になつて流れて行くのである。常に子供の解釋は現實的である、だから話す方も常に現實性なる事を要するのである、有たさうな、云ふたさうな、では子供は決して満足しない如何なる事でも、子供の出來ない事でも、嘘と思つて居る事でも現實性を以つて話せば自己の空想や希望を満足して喜ぶのである。子供に現實と云ふ事がどの位必要であるかを例を以て話せば、「吉田松陰は偉い人である強い人である此から吉田松陰先生のお話があります」と云つて扱て出て來た先生は如何と見るに、青い顔でヒョロ／＼として、小さな髪を横の方に今にも落ちさうにのせて神經質な小さな聲で「私が吉田松

陰と申します……」と話し出したとすると大人ならなる程此の人か吉田松陰が此の小さな體の中にあれ程大きな力が有つたのかと假令初とは輕んずる念が起つても後から前に輕んじた丈け、其れだけ偉大さを感じるであらう。然し子供には強い偉い人は大きな強さうな人でなからねばならん。どれだけ説明しても現實に強さ偉大さを見せなければ駄目である。「加賀の千代を御紹介致します」、と云つて、黒あばたの大きな脊の低い女が地響させて來た。そして演壇に登る時に膝まで出してやつと上り、かすれ聲を出して、「私が加賀の千代と申します」、と云つたとすれば如何でしやう。「一抱あれど柳は柳哉」、あの身にあれ程優しい情緒があるだらうか。「朝顔に釣瓶取られて貰ひ水」「澁かろと思へど柿の初ちぎり」と大人は感心するとしても子供は駄目である。服装や態度の研究すべきは此處であつて子供には現實に表はして見せなければならぬ。

第六、子供の注意の纏る時間が極めて短い事。

一體子供は何分位注意して居るだらうか、大體に於て一年二年なら十五分か二十分で三學年以上は四十五分か一時間位だらうと云はれて居るが聞くのは大體に於てさうかも知れない。然らば其れだけ注意が不斷に續いて居るかと云ふに決してさうではない。注意程纏まらないものは無い。心臓の活動は絶えずやつて居るが、活動の間には完全なる休を取つて更に新しい活動を始めて居る。注意も此れと同じく實驗による一物に注意の纏まる時間は二三秒であつて一つ／＼の間は明に切れて居る、此の休んだ間に他の事が入つて來る。一本の糸の様なものと思つて居たのが、絹糸草を植ゑて一色縁となつて居る様なものである事が分つた。小さなものが搔亂されず稍纏つたものである。子供の注意は此の二分の一か三分の一と考へなければならぬ。長い／＼切れて居ない言葉で一口に話す子供には間違ひやすい。言葉は簡單に短かく切つて話す事が必要である。

以上六つの注意すべき事を述べたが、此れより考へて見ると大人に話す時より子供

に話す時の方が餘程むずかしいに拘らず小學校の先生まで研究する人の少ないのは遺憾である。「此處に立たせられたのは東都で雷名と、ろいた巖谷先生であります。諸君静肅に謹聴しなければなりません」と云つて後で子供がちつとも私の云ふ事を聞かなかつたと云ふ小學校の校長があるが此れは聞かないのでは無く全く分からなかつたのである。

次に言葉の性質に就いて一言申し上げまじやう。言葉の性質は感情が基礎となつて語となつたので随つて感情と共に調子が伴うのは必然である。此の調子が伴つたものは勢ひが出来て来る。此の語勢があればこそ一行一義が成立する。例へばサ行は靜かな隱氣な氣分が起る、「サラサラと絹ずれの音」、「ソヨソヨと吹く春風」、「シンシンと夜は更け渡る」、「シトシトと降る五月雨」皆隱氣なものである、此れを強くしやうと思ふ時はカ行になほせばよい、「ガサコソ」、「カンカンガクガク」、「キゼン」、「クゼン」として畏れず、「ゴウゴウ……」此れを考へて見ても言葉には必らず語勢が伴な

ふ事を忘れてはいけない。

二

今申し上げた様に、言葉は感情が基礎となつて出来ることがある。だから語勢はなるべく心が言葉に表はれるやうにしなければならぬ。又外に他の言葉をそのまゝ用ひて表はす事がある、即ち模聲である。模聲は餘り語勢をつけると威嚴に關はるといふ人がある。賢いと言はるゝ位置にある人に限つて語勢を用ひない。其結果心の伴はない聲は人を動かすことは出来ない。話す時は人を動かすだけの感情を起させなければ話が活きてこない。それには心のそうした聲を用ひずして人を動かさうとするのは、命令によりて感動させ、印象を與へんとするのである。かゝる人は實に少くない、平氣な穩かな調子で朗讀的に、『此は國家の爲めに大いに憤慨しなければならぬ事でありませう』、といふても何等の力はない。せなければならぬとは命令である。一層の事

命令で印象を與へ様とするなら、もう少し便利な方法がある。氣を付け、悲しめ、と號令でもいゝ筈である。これでポロ／＼と感極まつて泣くといふことがあらうか、然し實在に於いては此命令の形式によつて人を動かさうとする人の多いことに驚く、日本の議會でやる演説は大抵これである。米國のウイルソンの演説を讀んでも語勢が出て來る、心より出る人格の聲でなければ、人を動かせぬ、況んや子供に對した時は殊に語勢が必要である。これを考へると最後の雄辯術として言葉に感情を俱はせる眞面目が必要である。雄辯は誠の言葉である、子供の様に直覺的なものには自分が動かすして子供を動かす筈はない。小三は寄席に出る前に不愉快なことがあると、どうして人も動かすことは出来なかつたと云つて居る。出る時は家人に、どうか己の氣にくはぬ様なことはして呉れるなど繰返し云つて居た。さうしていゝ氣持で出て行つたのである。流石は斯道の達人であると思はせる。私の經驗によると學校で話をする時は左右に縣視學、校長等が座を占めてをる。先づ控所に這入つて來た時に禮をする、こ

れが久留島か、話は上手だといふ事だが、學校はどれ位まで行つたのか知らん。餘り丁寧に禮をするに損をするといふ様な顔が見ゆる、かゝる事があつて演壇に立つた時私の卑しい心の働きは、今に見る感心さしてやるからといふことになる。自分にはよく形容が出来たと思つても、子供はちよい／＼顔を動かす、私は汗びつしよりになつて話しても子供と同化する心がないから、必ず失敗に終るのである。多くの小學校の集會に行くと先生は居ても自分の生徒は靜かにと言つて靜めるが隣の他校の生徒がいくら騒いでも知らん顔をして居る。全く自分獨りで統轄して行かねばならぬ、私は演壇まで行く途中祈りたい心が起る、どうか子供と同化することが出来るやうにご祈つて話した時何と話したか、どんな形容をしたかわからないが、話が終つて、子供がワトツとなる、自分もワトツとなる、控室でどうも御苦勞様と言はれると二重な禮を言はれるやうな氣がする。眞に子供に共鳴した時それで御禮はたくさんに酬ひられてをる。かの話の大家サラコン・ブライアント女史は自分が眞に興味を感ぜざる話は人に話

すなど云つて居る、子供に對しては殊に然りである。然るに多くは何か新らしいもの變化あるもの、といふ風に求めてゆく。甚だしきは君の話を一寸やらせて呉れ給へ。あれはいゝ話だといつて自分の何等苦しんだものでない、即ち自分の頭の中の話でないから心のそうした全人格を以つて投出した話でない、子供は捉へられぬ。これを以つて見ても如何に眞面目ならざるべからざるかゞわかる。心の持ち様によつて、受け方がまるで異ふ。これは雄辯哲學であつてかゝることを長く云ふて居ると時間に制限があるから、これで止めてをくが基礎は此處に於いてもらひたい。高いといふ時は高い心持で、大きなといふ時は、大きな心持ちで話さなければならぬ。

次に模聲は程度問題である。他のものが全く他のものになることは出来ない。模聲は聯想を起させるだけで充分である聯想させたら直ちに自分の所に、かへらねばならぬ、吾人は話家ではない、権兵衛、太郎兵衛を活躍させてそれで満足ではない。これを用ひて佛陀の慈悲、人の道を知らせるのである。豆腐屋の話をする時、「トイフヒー

〜と云ひながら」と、第三番目の語で話にかへる必要がある。折角模聲を用ふるなら感じは充分表はしたい。語勢と模聲とを充分に研究すると必然に考ふべきは聲である。日本では聲といへば咽喉を思はせる、君の咽喉を聞かせ給へといふイタリアは一番大音楽家の出る所である、然るに「咽喉を持たぬイタリア人」といふ言葉があるこれはイタリア人は咽喉で歌はない、といふ事を意味してをるのである。咽喉で歌ふものはまだ及ばないのである。米國の大演説家ジョセフ、バアカアは二週間二萬人に對し毎日二回の大演説をして非常なる影響を與へた人である。先生の聲の秘訣を教へて下さいと云つて來た人に對して、十七八町向ふの小山を指して、毎朝駆足で向ふ迄往つたり來たりして、呼吸を練つてをるのみと答へたそうである。話をする人はこゝに考へ及ばなければならぬ。

第一呼吸の調節に就て申せば、一分間に幾度なすか氣が付かない。如何にして調節するかといふに二つの方法がある。一つは正しい呼吸をするといふ意識を持つ事であ

る、普通の呼吸は肺の三分一しかは入らない、餘程すふて三分の二である。

第二に自由なる呼吸をなすことである、長短、速遅、を練ることで、これはむしろ練習も必要であるが、會場に出て自然に經驗することが一番よい。呼吸の調節が充分出来ない時は言葉を短く切るので話を徹底させる事が出来ない。まだ慣れない書生が演壇に立つた時は心臓の呼動が激しい時は血液も早くめぐり呼吸器に内臓の壓迫をうける、火事の場合女の叫聲はこの種類であつてこれは呼吸の分量が思はず多かつた爲である。これを考へても呼吸を練つて自由なる呼吸をなしうるといふ自信がなければ多數の人を動かす事は出来ない事であらふ。然らば如何にして練習をするか、或西洋人が肺臓に「息を吸ひ込むと思はず。これを胃袋に吸ひ込むと思つて息をせよ」といふてをる。日本でもあの人の聲は下腹より出るといふのと同じ意味である。肺に呼吸をする胸張をつて横隔膜を上げることになる。呼吸の基礎は胸にあらず腹にある。下腹に、むしろ腰にある事が經驗によつて發見さるゝだらふ。長い講演をするに腰がいた

い、長く立つて居たからではなく呼吸の基礎が腰にあるからである、かゝる聲には壓力がある。この事を考へて呼吸を練れば充分であらふ。

次に聲の種類に就て申すと、聲は如何なるものを用ふるがよいか、人に聞かれる聲は高低速遅いづれが一番可いであらふか、注意をさせるは高い聲であるが、餘り聲が強いと其の刺戟によつて聞く者を勞れさせてしまふ。厭になつて聲から遠ざからうとする。高い強い聲はごく必要な時にのみ用ふべきで、最も話に適當な聲は低い大きな聲である。これは如何にして出るか、著音器は高い聲ではない、低い聲が反響に反響を重ねたもので、低い聲にリゾナンスを與へたものに過ぎぬ、共鳴のある聲とない聲は、口中に指をさし入れその聲の變化する時は共鳴する時であるから直ちに判断することが出来る。共鳴のある聲は基礎は低くとも大きく柔かに當る、これは低い聲がリゾナンスに依て圓くなるのである。高い強い聲で話すよりも圓い聲で話すに心地よく話をきかせることが出来る。

話し出す時は低く言はなければならぬといふが此は時と所によつて異なる。前の人がある。此れなら聞けると思はせた時に平生の聲にかへる。要するに低い聲を以て標準にする事は誤らない。真宗の所謂型の説教は此意味に於て全々廢すべきものではない。人の頭をとらへるのは、圓き低い聲が一番である。子供にはとらへて徹底せなければ役立たない。

(1) 話者の態度に就いて

前には子供に如何なる言葉を用ふべきかと云ふ事に就てお話致しましたが次には態度に就てお話しやうと思ふ。態度は大人に属したものと子供に属したものと全く別なものではないが、特に今日は子供に属する時の態度に就てお話ししやう。此の態度は實に邪魔になるもので殊に威嚴を以て話したい時には此が問題となるのである。

私の所にも時々尋ねに來られる事がある。「私は餘り用ひたくないが一體どの位用ひたらよいでしやう、どんな態度が一番よいでしやうか」、尙進んで、「机の右と左と中と何所に立つのが一番いゝでしやうか」「歩きながら話すのは如何でしやうか」、等尋ねて來られる事があるが此等は部分的な態度に過ぎない。其の態度とは決して部分的のものではない。足や手の置き所が其宜しきを得て能事畢れる乎。一體態度とは何ぞやと云ふ事に就て述べやう。秩序立て、抽象的に話すと餘り長くなるから實際問題に就て話して行かう、假ひ手の形や位置はよいとしても若し其人が初めるに當り鼻をかみ鼻の下に何か光る物が残つたとしたらどうでしやう、聴衆は何だらう、と思つてよくよく見ると拭き残りの或物が光線の具合でピカ／＼と光つて居るのである。其或物は話して居る講師は「人格と修養」と云ふ題で立派な態度でやつても聴衆は苦しくて堪へられない。鼻の先の人格の方が餘程印象が深い。歸る時には「あの人の鼻の下には參つたなあ」と云て居る、此の様に一寸したものが反對に矛盾した形を取ると六尺豊かの態度まで

破壊してしまうのである。又講師が會場に入らんとしてひよろ／＼と倒れんとして辛うじて立ち得暫らくして演壇に立ち「人格と修養」を論じ、「人は泰山の如くあるべし」と云ても先の印象があるから更に其甲斐が無い。聴衆は笑つて居る。態度は目に見ゆる言葉である。大小、手足何であらうが態を以て見ゆるものは皆言葉と同じ働がある。語らんとする形が聞かんとするもの、眼に映じた時話の始つた時である。

態度は全人格を表はす所の態度である。態度無くして話す事は出来ない。吾々は如何なる態度を取るべきであらうか。聞く人は如何によく態度に依つて居るであらうか。一點の疾しき事無くして演壇に立ち得たものは態度を練り得た者に等しい。何となれば全人格が自然に其所に表はれ聞く人は其に動かされるからである。去年の講習會に高島氏が兒童心理で直觀と云ふ事を云つて居るが子供は端的に見た所又強い印象をよぶもので話す人の人格が子供に感ぜられる。此所に立つた人は偉い人であると云へばかの強さうな大きな人でなければならぬ。立派なものと云ふなら目で見て立派なもの

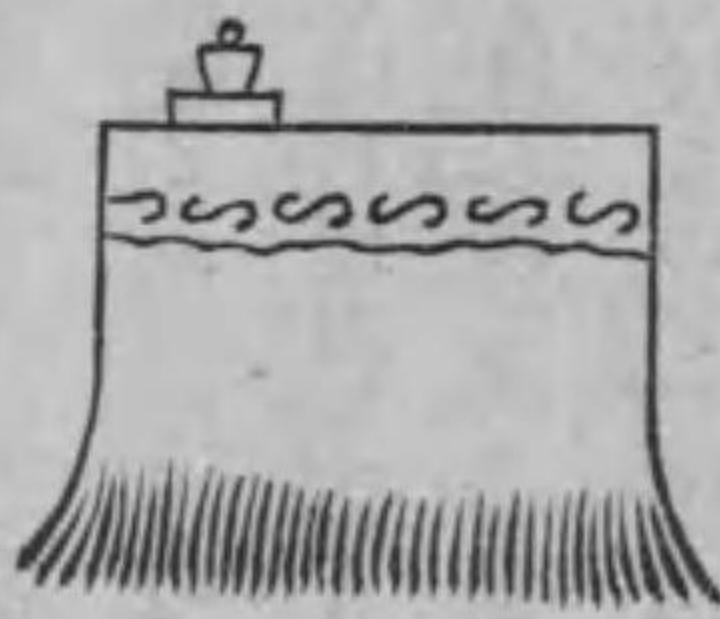
で無いと子供は承知しない。馬場伊達は大雄辯家と云はれた人である。彼は何時も演説の前にカバンより鏡櫛を出してをめかしをしたさうである。皆の人々は「馬場の野郎が又めかしやがる」と云つて居たが聴衆は決してめかした顔としては見ず整然たるいゝ氣持のする顔であつた。

形が人に語る實例は色々あるが一つ二つ述べて見やう。福澤諭吉先生は聲で話される前に形で實によく語られた人である。慶應義塾で演説會がある時先生の番は何時も五六番目である。聴衆は皆大分うんざりして居る。殊に先生の前に出るものは大抵小畑徳次郎氏である氏は温和な人で當らず障らすの真中を云ふ人である。随つて聞かんでも判つて居る様な事を小さな聲でグド／＼云はれる、此が終つた時は「ワッ」となる此は終つた事に感謝する聲である。此の時先生は控室の方に聴衆に後を向けて火鉢に當つて居られるが此が濟むと暫らくして立上がり横に懸けてあつた羽織を取て悠々と壇に上られる。右の手を通し左の手を通し襟を正し、紐を結ぶ其大きな態度に聴衆は

よく先生を見て居る。右を通すナと思て居ると右を通し左だと思つて見て居ると左を通す。やつと紐を結ばれてから右手で顔を覆て何かグドグド語り出される。此まで先生は非常な演説をして居られる。「聞けよ、今日は眞面目に聞いてもらはなくちや困るよ」と今口で云つても駄目であるから形で云はれる。耳には入れる事は出来ないが眼には入れる事が出来る。初め羽織を取つて此に手を貫す時は六尺四方もある様な大きな形で見せられる。此が眼に入らないものは殆んど無い。其して襟を正される時は二三尺になり、紐で二三寸に縮られてしまう、其して手を顔に持つて行つてグドグド初められると、初まつたなど思ふが聞へない。皆耳に手を當て、シートと制しながら前に出て来るものもある、此なら聴くだらうと云ふ所まで静まつた時に始めて「扱皆さん今日は……」と此から聲で話し出される。此が最も大切な態度論である。岸部君が新らしい子供に對する時此と同じ性質の態度で二三回目には必らず取る態度がある。子供がガヤ／＼云つて居る時壇に立つて盛に何か探しものを初める、子供は「何を忘れられたの

だらう取つて来ればよいのに」と思ひながら正面を見て居る。今まで他所を見て話して居た子供までが漸時前に注意を向ける。時を見て奥のポケットよりハンカチを出して「有つた／＼」と云ふ顔つきで前を見てニコツとやられる。「あ、ハンカチか」と子供も満足する、此までに大いに語つて居る。態度と云つても部分／＼離れた態度で話すものではない。全體の總合した姿で話すのである。話す人は此の覺悟が無ければならない。

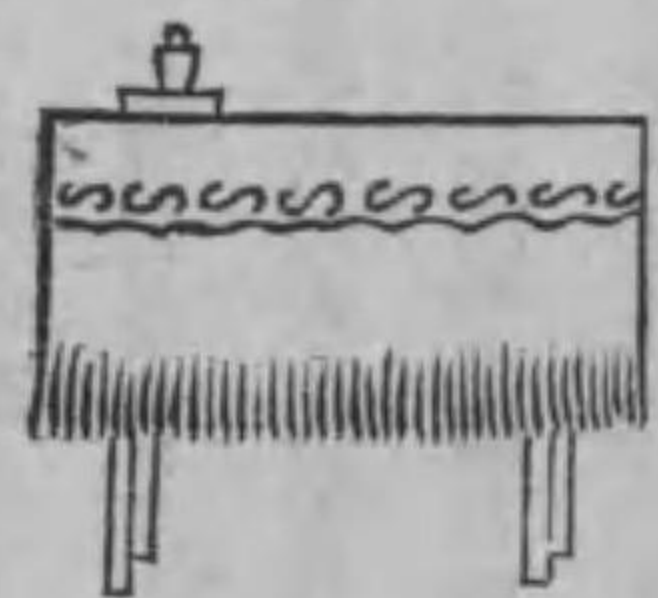
(圖一第)



(圖二第)



(圖三第)



其に關して演壇に就て申せば、同じ大きさの同じ形の机であつても其上に掛けられる布によつて大いに異て来る。例せば下の方が少し開けてある机(第一圖)下まで垂

直に下げてある机(第二圖)下の方から足が少し見へて居る机(第三圖)の三種があるとする、テーブル掛は無論口が無いから言葉で話しては居ないが此れで大いに話して居る。全く形で話して居る。此れを見ても餘程態度に學ぶべきものがある事が分るだらう。態度と云へば手の動かし方ばかりだと思て居る人に此所を考へてもらいたい。此の机と同じ理由で腰より上は同じ態度で居ても椅子に腰懸けた人が兩足を前に廣げて出して居るの(第一圖と同じ理)と垂直に下げて居るのと(第二圖と同じ理)椅子の下に入れて居るのと(第三圖と同じ理)によりて聴衆に對する印象が各々異なる。凹んだ人正直な人と云ふ事が直覺的に知られるのである。

又此を押擴めて人間の態度、物の形と同時に場所の吟味をする事が必要である。學校と劇場と二者いづれが話しよいかと云へば、光線の具合から云つても、聲の回り具合から云ても聴衆の配列の具合から云つても劇場の方が勝つて居る事は萬々である、然し聴衆は建物に聞かされる事が多い。講堂では滑稽な話をして學校を出る時には

皆の子供が禮をしてくれる。然し劇場で話すと如何に眞面目な乃木大將の精神訓話をしても出る時は子供はワイ／＼騒いで居て出口で會つても「此人だよ今話したのは」と誰一人禮をする者は無い。講師の言葉よりまだ大なる劇場や講堂に聞かされて居るのである。話の結果は如何でもよい多く集つて欲しい時には劇場で話した方がよいが今日の話は少し考へてもらいたいと云ふ時には講堂を擇ばなければならない。

又話す時演壇の前の端に出る人がある。多くは熱心の餘り出るのであるが聴く人は「危いなあ踏み外さなければよいが」とはらく／＼思つて話に集注しない。眞面目な話に限つて後の方がよい。眞面目な話の時は足を踏揃へて着實に話さなければならぬ、少し激して此所だと思はせる所は半歩前に踏み出す位の小さな形の轉換で充分である此の場合少しの形の動かし方が如何に人を動かし得るかを考へる形とを鹿略にしてはいけない事が分るでしやう。

今態度を研究するに便宜上腰より上と下との二種に大別する事が出来る。此の二種

の内執れに其變化を注意すべきかと云ふに、腰より下を動かすと弱い事を示すのであるが、上だけならば大きな態度を用ひても舊の形に復した時は直ちに講師の立場に返る事が出来る。腰より下を動かす講師は講師の資格を下すのである。太郎と次郎とが二三尺離れて話して居る事を示す爲めに自ら其位置に飛んで行つて向き直りに話したらどうであらう。可笑しくて講師の品格も何もあつたものでは無い。此は全く腰より下を動かしたからである。又テーブルに寄り懸つて話をする人がある。此の態度では腰より下が全く力が脱けて居る。見へない所であるけれども此所が最も大切で如何に言論が徹底しても、講師が弱い頭を下げた形であるから聴衆の方は「成程そうだな」と腕組して反返つて聴く、此でどうして聴衆を動かす事が出来やう、反對に腰より下にてつしり力を入れて「諸君我日本は……」とやつたなら聴衆は必らず前に寄り懸つてうなづく様になる。こうなければならぬ。此れを見ても態度の最も重大なる點は腰より下に在ると云つても誤りではない。前に圖示した机は何を示して居るか。第一圖の机

の背のヨロ／＼とした青い人が着し、第三圖の机に二十三四貫もある髯武者が着しても全體の威嚴に於ては大差は無い。瘠せた青い人は腰よりも動かすべからざる貫目をつけて居るので堂々として居るが、髯武者は反つて貧弱に見へる。腰より下は餘力、威嚴を示し上は物の序述の上の力を示すので上は動かしても講師の貫目や威嚴には關係しない。大の男でも六尺四方より動かない。下が動かないと講師の立場は丈夫であるが動くどぐら／＼して居る。鎌田氏が何時も議會で演説をする時片手を机の上に置いて全身の重力を此所に置きヒヨロ／＼と長い身體を傾けて二本の足をひねつて居る。速記を読んで見ると蘊蓄のある力の強い演説であるが聞いて居ると海鼠の演説の様である、足は必然的要求に逢つても動かさない、腰よりは決して動かさないと云ふ覺悟が講話者には必要であるヤツと立ち上る力士の様な覺悟が要る。だから始めて稽古する人は机無しで練る方がよい。

(2) 態 度 (身振)

次に身振に就て申すと、身振は如何なる態度に於て用ふべきかと云ふに、此は経験に寄つて自然に了解出来るだらうと思ふ、少しの動かし方で大きな事を語らする事が必要である、「トットトットツと向ふの方へ走つて行つた」と云ふ時に指の先で左から右へ指して其所で止めて置くこと走る人も其所に止まつて居る様な感がある。此の時指の先をヒョツと跳るとすつと向ふの方まで走つて行つた様な感を與へる。此がエキスである。東京の名高い話家小三は決して大きな身振をしない大檀那と若衆との會話の時でも膝の上に置いた手を少し引き腕を少し張つたのが檀那で手を膝の前まで出し腕を胸に付けたのが若衆である。此は甘くエキスを捕へて居る。此で大きく動かしたより以上の物を聴衆に見せて居る。此の境地に至らなければならぬが此所まで至るには順序として大きな態度を取つた時代が有つて此を通り超したのであらう。

次に早い事は早く云はなければならぬかと云ふに決してさうでは無い。早い事だからと云つて早く云つても聴く方が殊に子供であれば全く受け取られない事がある。

「屋根に登つて雀を取らうと行つた張四郎は両手に雀を取つてホツと安心して下りやうとすると今まで支へて居た腕がツルツとたる「ハツ」と思ふ暇も無く眞倒にドスンと落ちてしまつた、運悪く急所を打つてウーン……」

此の話をする時迄ると落ちるとウーンと云ふのは恰んど同時である。決してこんな暇のあるものでない。と云つてスル、ハツ、ドン、キュ、ウーンと云つても聞く方では少しも分からない如何に眞に近くとも順序を立て、一々印象を與へて話さないと分らない。

木村重成は色白の好男子で女に人氣のよいのを心よく思は無い茶坊主、何時かひどい目にあはしてやらうと思つて居ると湯屋に色の白い男が後を向けて洗つて居る。今行つてやらうと思つて眞裸體になつてビシヤリとやると「誰だツ」と後を向いたのは

思ひ掛け無い後藤又兵衛。「シマツタ」と思つて茶坊主、湯氣に陰れて居ると「貴様だなッ」と云つて首筋を攫んでハツと投げると「ウンウンウン」飛んで行つて壁に當つてウンと……事實から云つたら此もこう暇のあるものでは無い、然し充分理解するだけの順序と時間を與へる事が必要である。

ベルグソンの教育哲學の中に期待、満足、印象と進んで行かなければならない事が説いてある。強い印象を與へ様と思へば初め期待心を起さなければならぬ。今度はこうなるだらうと待ち受けて居る時やつぱりさうだつたと云ふ満足を得させると此が印象となる。此三段は講演を聞く時にも必然に起るのであつて話は如何に組立つべきかと云ふ時にも考へなければならぬ事である。期待無くしては印象はあり得ない。前に述べた様にせねばならぬと云ふ命令即ち壓力で強い印象を與へ様とするのは不可能であつて、印象は期待より来る自然の結果である。例へば原稿用紙二三十枚密に書いたものを持って出て低い聲でぐだぐだ話して「私の云はんとする所は五ヶ條に分つ

事が出来ませんが此が其第一ヶ條であります」とやると「やれ／＼今までの四倍か」と思はせ、又十五分間ぐだぐだ云つて「此で第二ヶ條は終わりました。次に」とやると「早く済めばよいがなあ」と話は聞かないで考へて居る。此んな時には決して印象を與ふる事は出来ない、又巻紙に小さく長く書いて来る人がある。大分聞いたなと思ふ頃三十分しか過ぎて居ない先にまだ澤山巻いてある。最早厭になつて先を聞く氣になれない。此に注意しなければならぬのは前の辯士が五ヶ條で少し長過ぎたと思ふ時、後に出て聴衆の期待心を得る事である。「私も五ヶ條に分つて……」とやると見事先敗。聴衆の期待心は無残にも裏切られてしまう、人は一寸した注意で大いに動かされる事がある、此は全く群集になつて居るからである。聴衆が密に集つて居ると個性は滅却されてしまふ。個人／＼としては十二分の人格を有する人も群集となると個性は大分消れて雷同性が感情を基礎とした一つの心となつてしまふ。一角に起つた感情は全體に渡つて行く。此の時は推理能力の如きは殆んど作用がないと云つてもよい位でせい／＼類

推作用位のもが推理的に作られる唯一のものである。

殊に子供の場合に此を考へなければならぬ。子供は多く集團に對して話す場合が多い随つて子供に弱い推理作用が増々弱くなつてしまふ。「さも悲しさうに」と話す大人なら其景を想像する事が出来るが子供には全く出来ない。一人／＼に對して「悲しいとは如何なる事か」と問ふと「つまらない事」「泣きたい事」等答へ得る子供でも群集となると「悲しさうな」と云ふ抽象的の言葉では分らない。群集に話す時には直覺的に分る様に話さなければならぬ。「向ふから花ちやんが青い顔して涙をポロリポロリ流して時々ハ／＼と吐息をついてとぼ／＼と……」と話せば成程悲しさうだと云ふ事が分る。前に返つて話は期待を起させる事が必要である。前の辯士が五ヶ條で長過ぎで失敗したと思ふ時は「私は唯一ヶ條だけ五分間位お話しやうと思ひます」と云ふと其なら聽いてやらうと云ふ氣になる。其所で話し初め「然し此の一ヶ條では龍を書いて青を點せざるのである……」此で兩輪は出來たが車體が無くてはならない……「車

には積む荷がある、然し車を引く人が居なければ何もならない。此が第五番目の……」五分と云ひながら一ヶ條と云ひながら長く五ヶ條を聞かして居る、此位の氣轉は必要である。

先にも云つた様に餘り早く話すと子供は捕へる事は出来ない。理解の無い所には勿論満足の有らう筈が無い。「大きなものがゴロ／＼と轉つて來た」と話す時、どの位大きなものだらうか、どんな風に動いて居るだらうか。形状と動作と二つのものが助け合つて印象を深からしむるのであるから、二つのものがよく合する様に二つの印象をよばなければならぬ。此處には色々の注意が要る。芝居で煙草を吸ふ時に普通の様にすれば客に何等の印象をも與へない。殊更に大きな身振をする。天竺徳兵衛が煙草を吸ふ所等は殊更に緩かに大きく態度を取る。此は見物人に期待、満足、印象の三階段を十分に取らしむるのであつて此は全く何百年間の經驗が自然に此處に來たのである。此れと同じ原理はお話の上にも十分ある。早く捉へる事の出来ない群集に對した時は

早い事も緩かに強くやる事が必要である。殊に子供に對した時は其の必要がある事は申すまでも無い。

何故態度が必要であるかと云ふに態度と暗示は深い關係がある。人は意識して受けた刺戟よりも無意識の間に受け入れた刺戟の方が餘程大きなものである。少し尾籠な話であるが子供が寢小便をした時、朝になつて實物を前に見せて、「汚いじゃないか、臭いじゃないか、明日からしたら聞かないせ」と叱ると子供は自分の恥を泌々と感じ「あ、情け無いなあ」と自分で自分が情け無くなり、自分で自分を苦しめて居ても此で止むかと云へば決して止まない。意識的教育よりも無意識的教育、暗示的指導の方が餘程有効である。子供がうとくと寝る時、まだ眠り落ちては居ない半意識の状態に在る時母が聞かせるとも無く聞かせる事が必要である。「お母さんがお臍をよくなせてあげるから今日からおしは決して出ないよ、出る様になつたら眼が覺めるんだよ」と繰返し／＼云つて聞かせる。此の時はまだ潜在意識は眠つて居ない。聞いて然も聞い

たと思つて居ない。三日五日と繰返して居る内に今まで手を盡して止まなかつた寢小便が止むのである。二三歳の時からすでに此の暗示的教育の効果が現はれる。乳首を衝へて居たのを眠つたと思ふて離すと口をチク／＼と動かして居る。あの時の事が一生の力になる。此の時の暗示が如何に人の運命を支配するだらうか想像以上なるものがあると思ふ。

暗示の力は何故左程大きいかと云ふに、凡そ無抵抗の時受け入れられる程其儘受入れられる事は無い。意識して居る時は第三者となり批評家となる場合が多い。無意識の時は無抵抗でソツクリ頭の中に入る。聲よりも態度の方が力強く人を動かす事の出来るのは此の暗示の力である。此の暗示の力が如何に大きいかと云ふ事に就いて一例を以つて申さう。

私は二回米國に行つて、向ふの學校に居た事もあり米國は可なりよく見た積りである。そしてあんな厭な國は無いと思つた。何を急げばあんなざわ／＼した生活をして

居るのだらう。一體何の爲めに生存するのか疑がつた位である。然し此の渦の様な國民の中からはウイルソンあり、ワシントンあり、リンコルンが居る。此の國民の何所からあの様な大なる美しい人物が出たのだらうか私は不審でならなかつた。然し二回目の時西東に渡つて小學校幼稚園を見て廻つた時果ては茲では無いかと思ひ當つた事があつた。廊下控所等不用意の所にこんな用意がしてあるかを見た時に其は千差萬態であるけれども小學校も大學校も幼稚園も精神的事業を爲す所でミレ一の畫の無い所は無い。御承知の通りミレイはバルビゾン派でバルビゾンの森にコロイ等と逃げ込んで畫を研究した一派の畫家である。其ミレ一の畫が何所にも通じて有るのは「アンゼラスの鐘」と題する畫である。此の畫は有名な畫で皆さんもよく御承知であらうと思ふ。廣い農園を背景として若い夫婦の農夫が向合て立つて居る。夫は農具を横に置き妻は手押車に馬鈴薯を積んだのを横に置きお祈をして居る。夕靄がボーとして地平線が幽かに見えて居る。其地平線上に高く聳えて居る寺院の塔の一面を入りかけた夕日が強

く映して居る。六時にはアンゼラス上人の感謝の鐘を鳴らす。今日一日の幸を感謝する鐘をガラン／＼と鳴らすと何をして居たものも感謝のお祈をする。今しも二人は今日一日を幸に野に働らき歸らうとするとガラン／＼と響いたのはアンゼラスの鐘、二人は立止まり静かに清い感謝のお祈をしてゐると云ふ畫である。米國の學校は性質程度を問はず何れの學校にも必らず一面は見出す事が出来た。此處に氣が付いた時茲だなあと私は思つた。米國人の子供の時、全く不用意の内に然も毎日々々、知らせることも無く深く／＼宗教心を刻み込んで居る。故に生活がそは／＼した中に居ても心の奥底には尊い力が籠つて居る。此が米人の偉大な所ではあるまいかと思つた。精神的事業に従事する者は此の暗示の力を以つて仕事をする事を忘れてはならないと思ふ。態度は服装と一致して無意識の内に偉大な作用を爲す事は餘程大いに考へなければならぬ。斯く考へて來ると何時も見る松までが子供の暗示感化の上には偉大な力を持つて居る。此の時有難い如來の御姿を子供の頭の中に刻み込む事は皆さんに取つては最

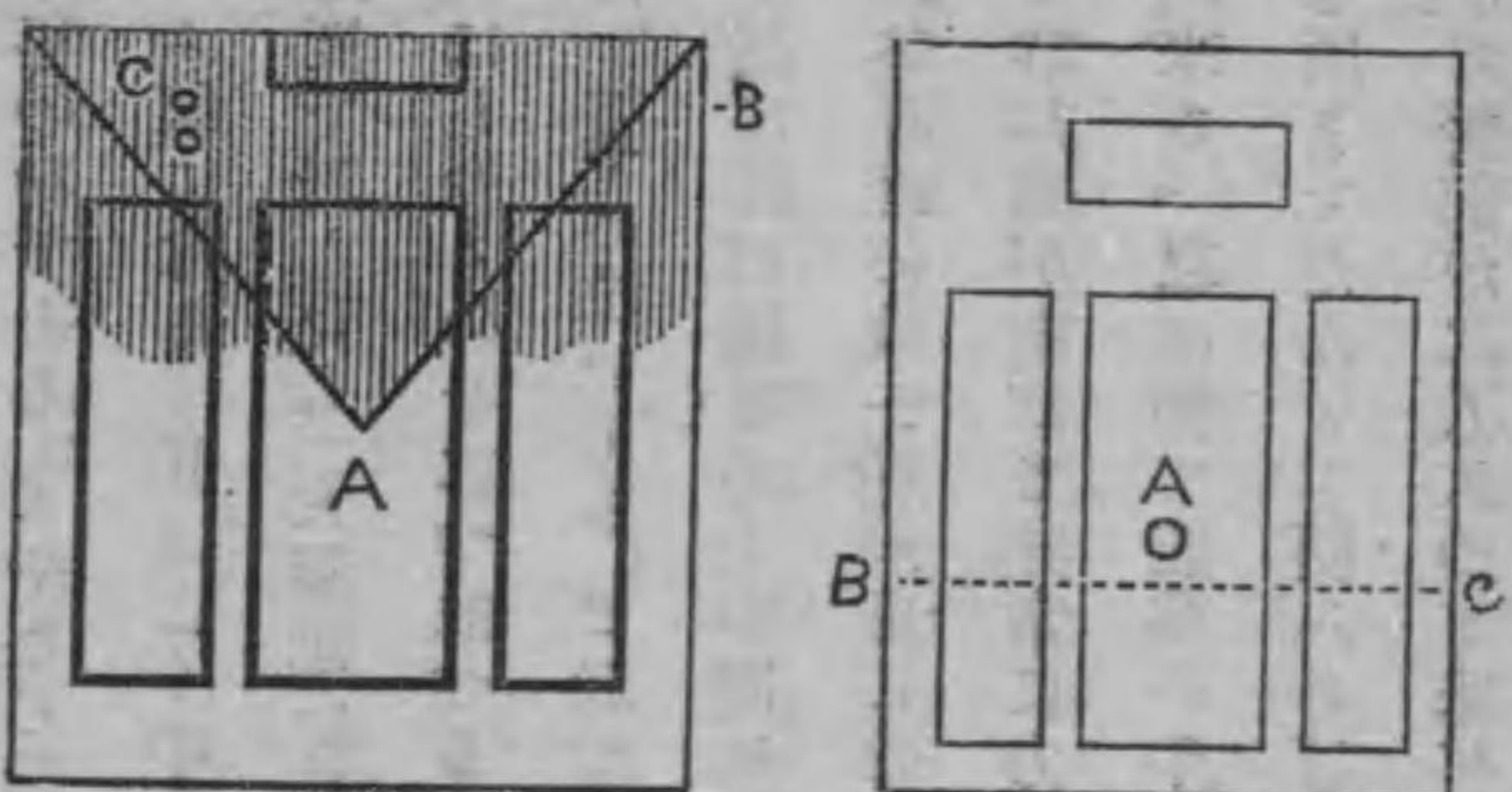
も大切な事であらうと思ふ。此で態度に關して私の云はんと欲する所は云ひ終つた。

(3) 場所と子供の集會

次に場所と子供の集會の事に就いて一言述べたいと思ふ。特に子供は周圍より無意識に影響される事を考ふれば子供の座る場所に注意しなければならぬ。然し大抵の場所は何等の注意無しに圖の様に座らせる。此れ程暗示の與へ難い會は無、女の一致する群集心理と男の一致する群集心理とは異つて居る。従つて共鳴する事件を異にして居る。中學生と小學生とでも既に異つて居る。中學生の集會に「私は校長と幼い時の友達で川や山に何時も一所に遊んで居ました。此處にこうしてお話する事も實に懐かしい事でありませう」と云ふ風に話すと「其れが何だ。つまらない」と云つて聽いてくれないが、女は「マー」と云つて極興味を以つて先を聽いてくれる。中學生に對し



た時、「諸君は、將來は澤山持つて居るが諸君が倒立しても及ばないものが一つある即ち年の功である」とやると「何だなま生な然し一寸面白い事を云ふな聽いてやらう」と云ふ氣になる。此はよく中學生の氣質に合ふ即ち共鳴するからである。女學生に此の態度で對したら「大變恐い先生」と云つてよく聽いてくれない。此の様に全く共鳴點を異にしたものを二つ並べると一が共鳴する時他の一は批評家となる。「何が可笑しいんだ」「やあ泣いてる」と云つて話の妨害になる。殊に中間の道は講師の心を最も亂し易い話す時は眼は多く中間に置かれる。然るに其中間が空虚である、肝心な心の置き所群集心理の統一點が虚になつて居る。だから眼を全體に向け様として中心に視線を置く時其處が虚だと非常に力がぬけてしまう。又中を虚にして置くものが其處に出来る。私は嘗て能登の牛津でひどい目に逢ふた事がある。乃木大將の話をして大切な所までだん／＼積みあげて此處だと力を入れ様とするとガラツと向ふの方の戸が開いて警部が二人入つて来て靴音高く中の道を通つて来る。しまつたと思つたが仕方が



事である。田舎等では話の最中に入口(B)を小使がガラツと開けて「今、村役場から……」

とやる。來賓席(C)で村會議員が「此の間の麥なあ……」とやる。此れで話は全く破壊されてしまう。中心に眼を向けて居る聴衆は何等の努力無しにB、Cに眼を向ける事が出来る。少し大きな形や音があると直ちに注意は話より其の方に奪はれてしまう。子供の轉り易い心に他より絶えず切り取る様な所であれば如何に此の時話しても話は徹底しない願くばAを標準として黒線のある所には少しでも動くものは置きたくないものである。

今一つ注意すべきは話の時一室に一年より五年まで一所に入れない事である。三年以上以下と二分するがよい。(三年も前學期には幼年組後學期には少年組)子供の心は三年位まで類似觀念の發達する時であつて三年以上は差別觀念の發達する時である。此の時子供には強い批評眼が加はる。「主の住は川下三里水よもて行け吾が姿」毎朝水に自分の姿を映して「あゝ此の顔を……」と云ふ乙女心を歌つたので決して嘘では無い。然しこれは大人の心であつて此を三年以上に話す時は大分言ひ方を代へなけ